

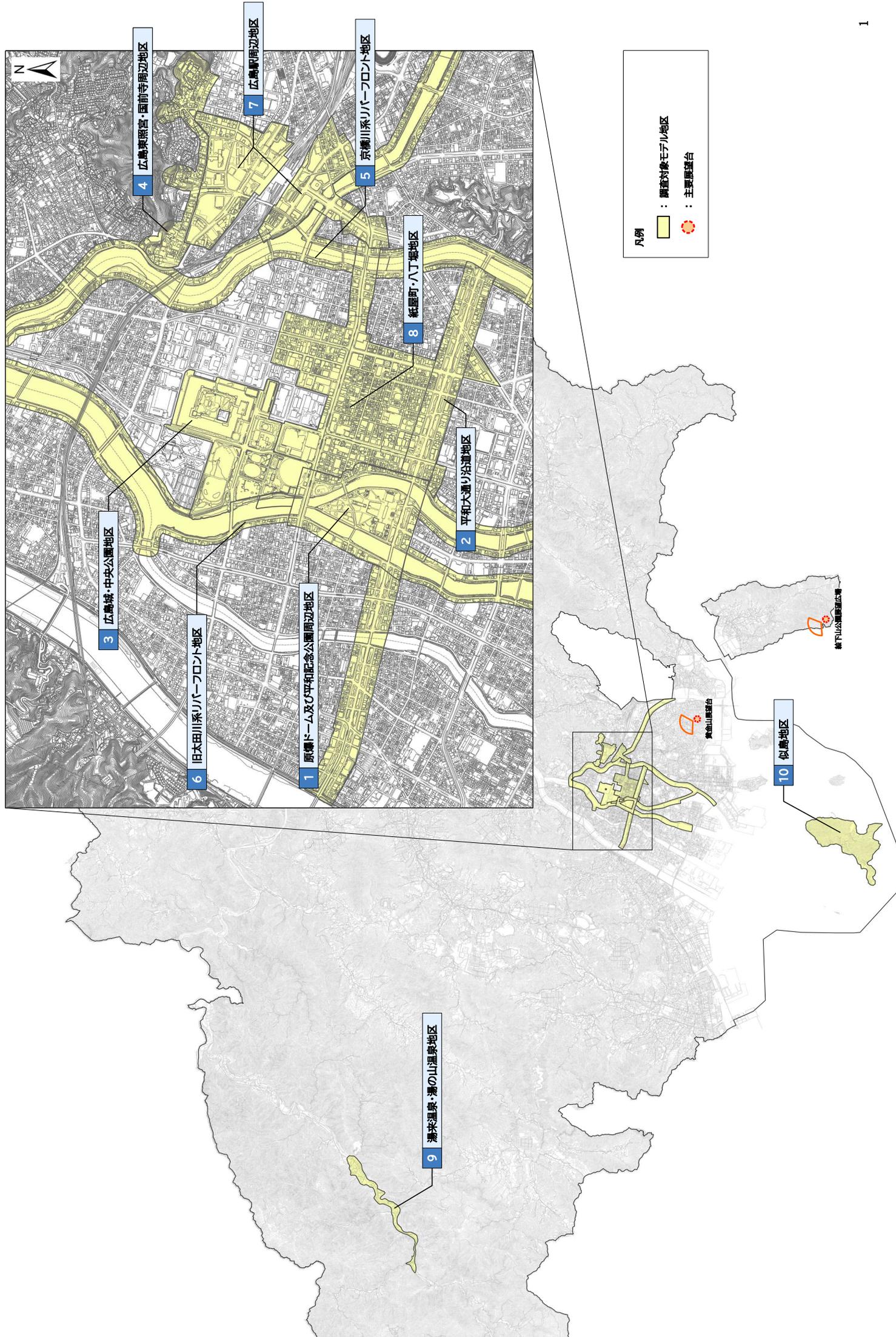
# 夜間景観実態調査結果

広島市都市整備局都市計画課都市デザイン係

## 目 次

調査対象モデル地区位置図	1
調査実施スケジュール	2
実態調査の結果	
モデル地区1 原爆ドーム及び平和記念公園周辺地区	3
モデル地区2 平和大通り沿道地区	11
モデル地区3 広島城・中央公園地区	15
モデル地区4 広島東照宮・國前寺地区	23
モデル地区5 京橋川系リバーフロント地区	27
モデル地区6 旧太田川系リバーフロント地区	55
モデル地区7 広島駅周辺地区	76
モデル地区8 紙屋町・八丁堀地区	84
モデル地区9 湯来温泉・湯の山温泉地区	100
モデル地区10 似島地区	108
そ の 他 11 歴史的建造物	114
そ の 他 12 展望台	119
参 考 13 平和の道・文化の道	127

# 調査対象モデル地区位置図



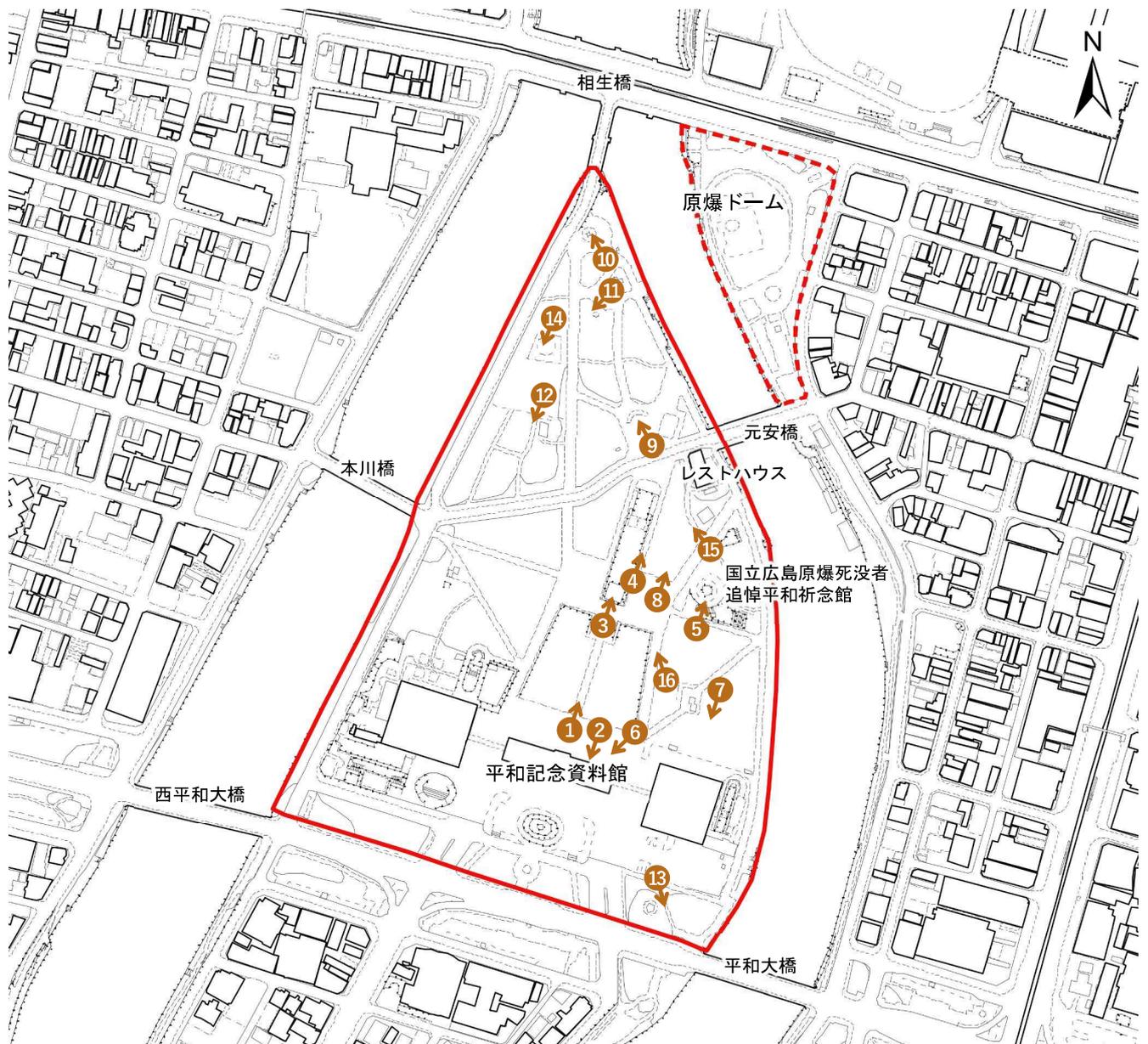
## 調査実施スケジュール

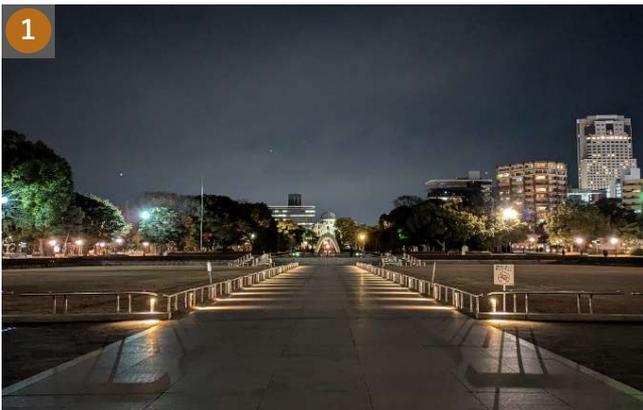
地区名		詳細	日程	曜日
1	原爆ドーム及び平和記念公園周辺地区	原爆ドーム	R7.1.15	水
		平和記念公園	R7.1.9	木
2	平和大通り沿道地区	鶴見橋→平和大橋	R7.2.6	木
		平和大橋→鶴見橋	R7.2.12	水
3	広島城・中央公園地区	広島城エリア	R7.1.8 R7.2.8	水 土
		中央公園(広島城以外)	R7.1.8	水
4	広島東照宮・國前寺地区	二葉の里エリア	R6.12.14	土
5	京橋川系リバーフロント地区	京橋川(東広島橋～栄橋右岸)	R6.11.29	金
		京橋川(稲荷大橋～東広島橋右岸)	R6.11.29	金
		京橋川(東広島橋～栄橋右岸)	R7.1.15	水
		猿猴川(駅西高架橋～平和橋右岸)	R6.11.29	金
		台屋の鼻	R6.12.14	土
6	旧太田川系リバーフロント地区	元安川(相生橋～平和大橋左岸)	R7.1.16	木
		旧太田川(三篠橋～相生橋左岸)	R6.12.14 R7.1.15	土 水
		旧太田川(横川橋～空鞆橋右岸)	R7.2.19	水
7	広島駅周辺地区	広島駅南口・駅前通りエリア	R7.10.27	月
		広島駅新幹線口・二葉の里エリア	R7.10.28	火
8	紙屋町・八丁堀地区	紙屋町・本通り・袋町	R6.12.11 R6.12.14	水 土
		八丁堀	R6.12.12	木
		相生通り	R6.12.12	木
9	湯来温泉・湯の山温泉地区	湯来温泉・湯の山温泉	R7.1.23 R7.2.20	木 木
10	似島地区	似島	R7.2.5	水
11	歴史的建造物	旧日本銀行広島支店	R6.12.11	水
		広島市郷土資料館	R6.12.14	土
		広島市江波山気象館	R6.12.12	木
		袋町小学校平和資料館	R6.12.11	水
		世界平和記念聖堂	R7.2.19	水
12	展望台	黄金山・絵下山	R7.1.10	金
13	平和の道・文化の道	平和の道	R7.1.16	木
		文化の道	R7.2.13	木

## エリアの特徴

平和記念公園は、原爆の犠牲になった多くの人々の霊を慰めるとともに、二度とこのような悲惨な出来事を起こしてはならないという決意を込めて、広島平和記念都市建設法に基づく「恒久の平和を記念すべき施設」として整備された公園で、国の名勝に指定されている。

世界遺産である原爆ドームを含む平和記念公園においては、市民や国内外から広島を訪れる人々が、平和を祈り、平和を考え、安らぎ、くつろぐことができる環境を整えていく必要があり、その周辺地区においては、世界遺産の周辺にふさわしい品格ある雰囲気と都市的なにぎわいとバランスがとれた都市空間を形成していくこととしている。





1

参道の足元照明は、厳かで控えめな印象。鎮魂の空間にふさわしい。



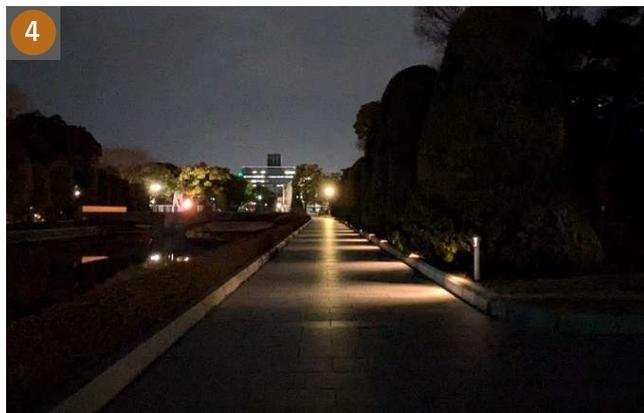
2

モニュメントや噴水等がシンボリックな場所であることを創出している。



3

原爆死没者慰霊碑のあかりは、厳かな雰囲気演出しているが、その背景や周囲の樹木があまりにも暗い。



4

連続する間接照明の足元照明（低ポール照明）が厳かな雰囲気を創出している。



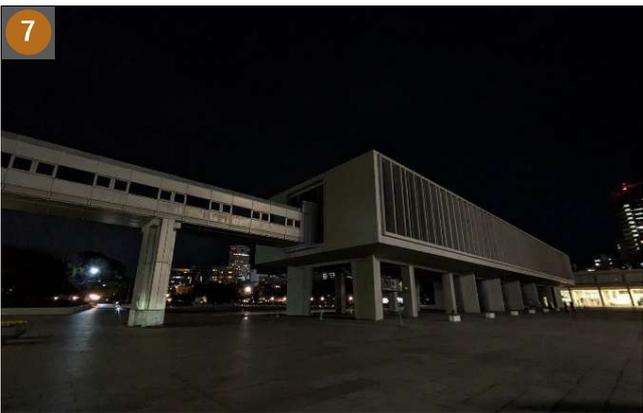
5

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、比較的新しい施設であるため、小さなあかりによる厳かな雰囲気が創出できている。



6

わずかなあかりしかない状況。



7

平和記念資料館は、夜間は全館消灯している。ピロティなどにあかりが灯れば、夜間の通行に安心感が増す。



8

点在する記念碑やモニュメントにはあかりが灯っていないものも多く、寂しい印象がある。



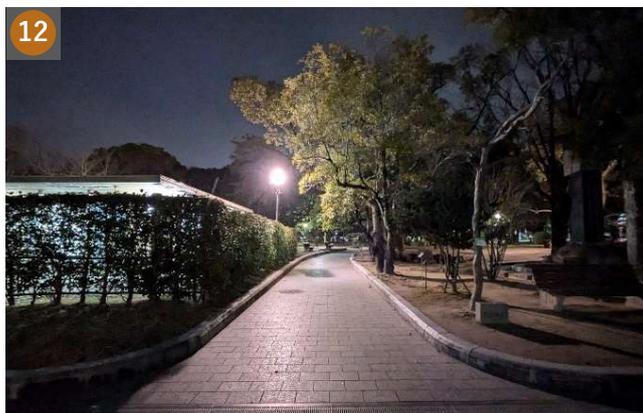
9 原爆の子の像など、一部のモニュメントはライトアップされている。



10 平和の時計塔はライトアップされているが、光源が古いため、演色性が悪い。



11 公園中央に位置する平和の鐘も照明演出が無く、寂しい印象。



12 園路の前方にあるあかりは通行する上で安心感はあるが、グレアが高い。



13 豊かな緑陰が暗がりをつくっている。このような園路の状態が散見される。



14 原爆供養塔。周辺にはわずかな漏れ光しかない。



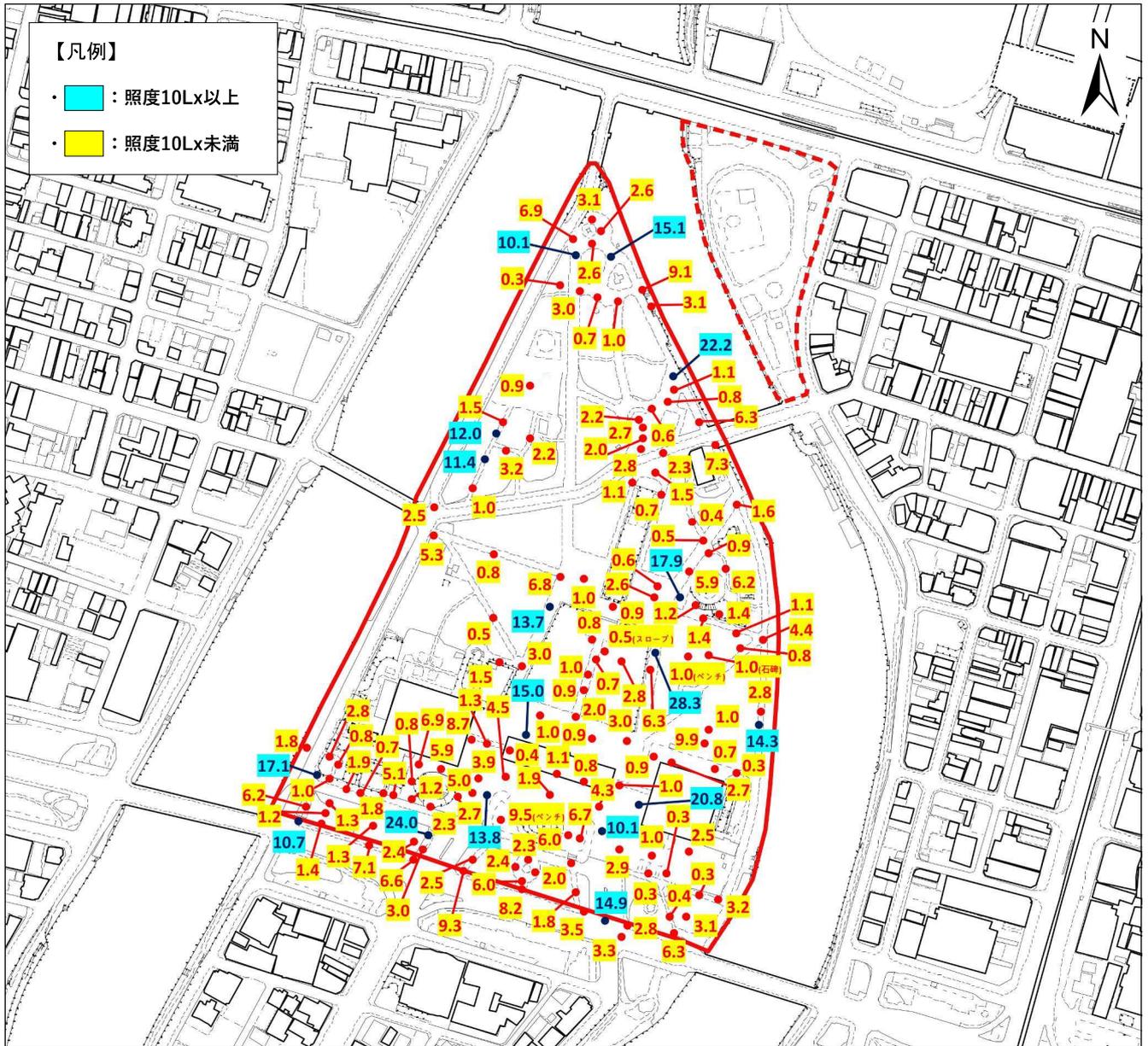
15 園路は大半が視認できないほど暗い。



16 一部改修されている公園灯は通行に支障はないが、明るすぎてグレアも高いため、厳かさや慰霊と鎮魂の雰囲気あまり感じられない。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

本エリアに必要な厳かさや慰霊と鎮魂のイメージを壊すことなく、現状の暗がりや不安要素を払拭するあかりを創出する必要がある。

東西南北の公園入口周辺は、落ち着いた雰囲気を持しつつも、入りやすさや安心感を与えるためのあかりを創出する必要がある。

平和記念公園の良さ、厳かさや慰霊と鎮魂のイメージがあまり感じられない。

## エリアの特徴

世界遺産である原爆ドームは、人類史上最初の原子爆弾による被爆の惨禍を伝える歴史の証人であり、核兵器の廃絶と世界の恒久平和を願う世界の人々の心のよりどころとなっている。

対岸から原爆ドームを望む景観は、水面に映り込む姿と主景となる原爆ドーム、その背後には復興を遂げた都心部の街並みが控えるレイヤーを形成しており、復興と平和祈念が重なる広島にしかない眺めである。





1

相生通り側の公園入口付近には照明施設が無く、入りたくなる雰囲気希薄している。



2

原爆ドームの姿は視認できるが、周囲は非常に暗く、安心感が不足している。



3

原爆ドームのライトアップは、拡散光で弱い印象である。



4

原爆ドーム周辺の公園灯は、拡散光でグレアがあり、原爆ドームの写真撮影にも影響している。



5

原爆ドームの美しい夜景を撮影できる対岸からの眺望。周辺の公園灯のまぶしさは至急改修することが望ましい。



6

視野の中に公園灯が入ってしまい、原爆ドームを眺めることに支障がある。



7

現状のライトアップは大きな投光器で全体を照らす手法で行われている。



8

周辺には暗がりがある。



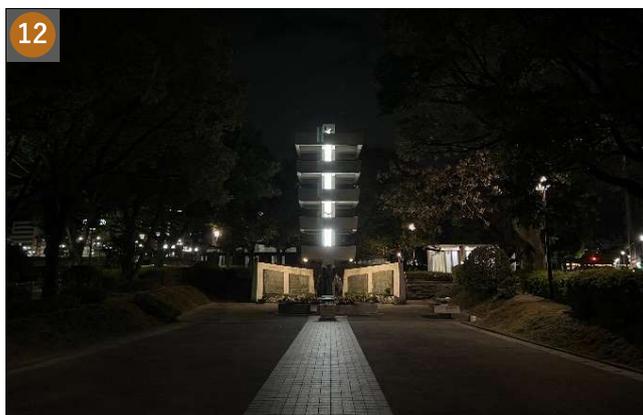
9 現状のライトアップには立体感が感じられない。



10 公園灯のまぶしさが視界に入り、原爆ドームよりも目立っている。



11 周辺は暗がりとなっており、快適な夜間景観ではない。



12 動員学徒慰霊塔の様子。



13 噴水付近の様子。



14 あかりが全くない場所もある。



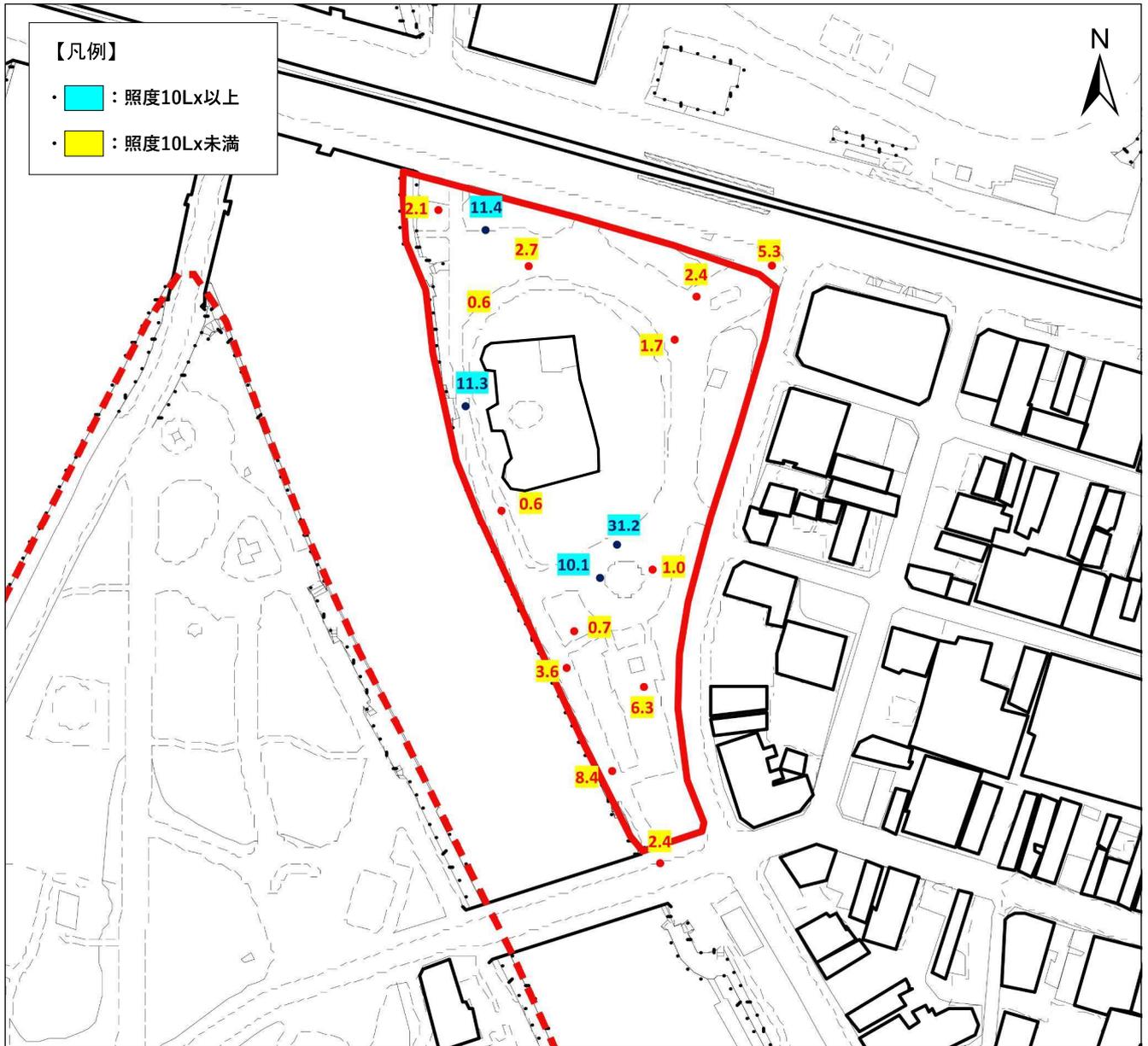
15 公園灯にはグレアが見られる一方、樹木は真っ暗で照らされていない。陰影のバランスが悪く、色温度もバラバラ。



16 白いあかりが暗闇に点在している。暗がりが多く、水辺は寂しい印象。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

白くグレアを放っているハイポール照明は、原爆ドームを眺め、撮影することの邪魔にならないよう、下方配光に改修することが望ましい。

全体的に白色のあかりがほとんどで、寒々しい印象。ドーム周辺部は暗がりが発生しているため、改善が必要。

特に北側の公園入口付近は、非常に暗く、公園に入ることさえも躊躇させてしまう印象。足元に間接照明をつくるなど、慰霊と鎮魂の場にふさわしい厳かさが感じられるあかりの追加が求められる。

## エリアの特徴

平和都市広島を代表するシンボリックな通りとして、平和記念公園の南北軸と直交する緑の都市軸を形成している。

緑地帯にはベンチなどはあるが、夕刻以降の滞留者はあまり見られず、現状は通勤通学などの通行利用が多い。

周辺にはホテルも多く、また、平和記念公園へと続く道であるため、海外からの観光客の通行も多い。

現在、自転車道の整備が進められており、今後はPark-PFIによるにぎわい施設整備など、利活用のための整備が予定されている。





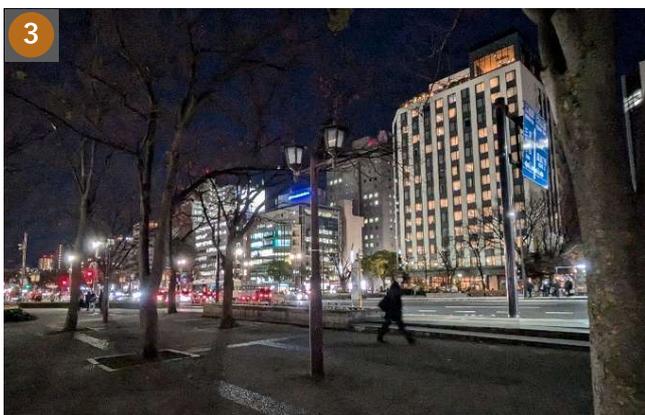
1

遊歩道の照明は中型ポール照明が基本仕様となっているが、グレアを感じる。



2

周囲に明るさがある場所ではベンチも利用されている。グレアが抑えられるとより良くなる。



3

非点灯の歩道照明。歩道部全体が暗くなってしまっている。



4

白神社には奥へと誘うあかりがあり、良好な夜間景観を形成している。



5

歩道は歩くことを躊躇するほど暗い。



6

ポケットパークの明るさが不足している。滞留できる環境ではない。花壇の良さも伝わらない。



7

樹木が大きな暗がりをつくっているため、不安感があり、通行しにくい状態が散見される。



8

足元照明で足元の明るさは確保できているが、視野の大きな部分を占める鉛直面に暗がりがあり、危険を感じる。



9

駐輪場は十分な明るさがあるが、白色でグレアもあり、良好な夜間景観とは言い難い。



10

遊具のある児童公園も暗がりとなっている。遊具は夜間景観のランドマークになり得る。



11

通りを見渡した時に樹木の暗がりが見え、視野に入る。周辺の建物のあかりも遮られ、見通しの景観としては良好ではない。



12

シンプルなデザインのパス停は明るさを認識でき、安心感を高めている。



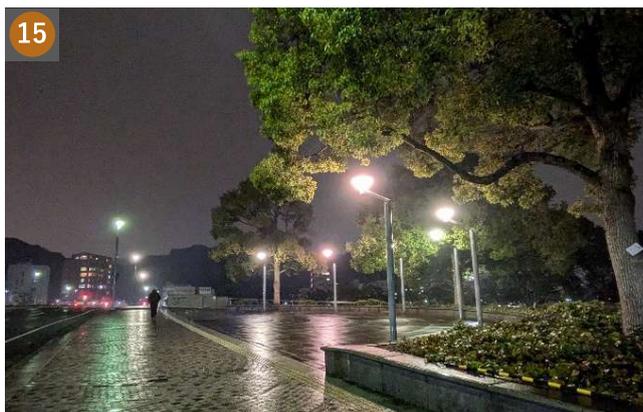
13

モニュメントとして設置された石灯籠などの資源が夜景に生かされていない。



14

せっかくの庭園デザインも夜間には暗がりとなっている。



15

鶴見橋西詰の円形広場。歩道と一体的に使える舗装デザインがされている。照明と座れる基壇部も広場らしい。照明はグレアを感じる。

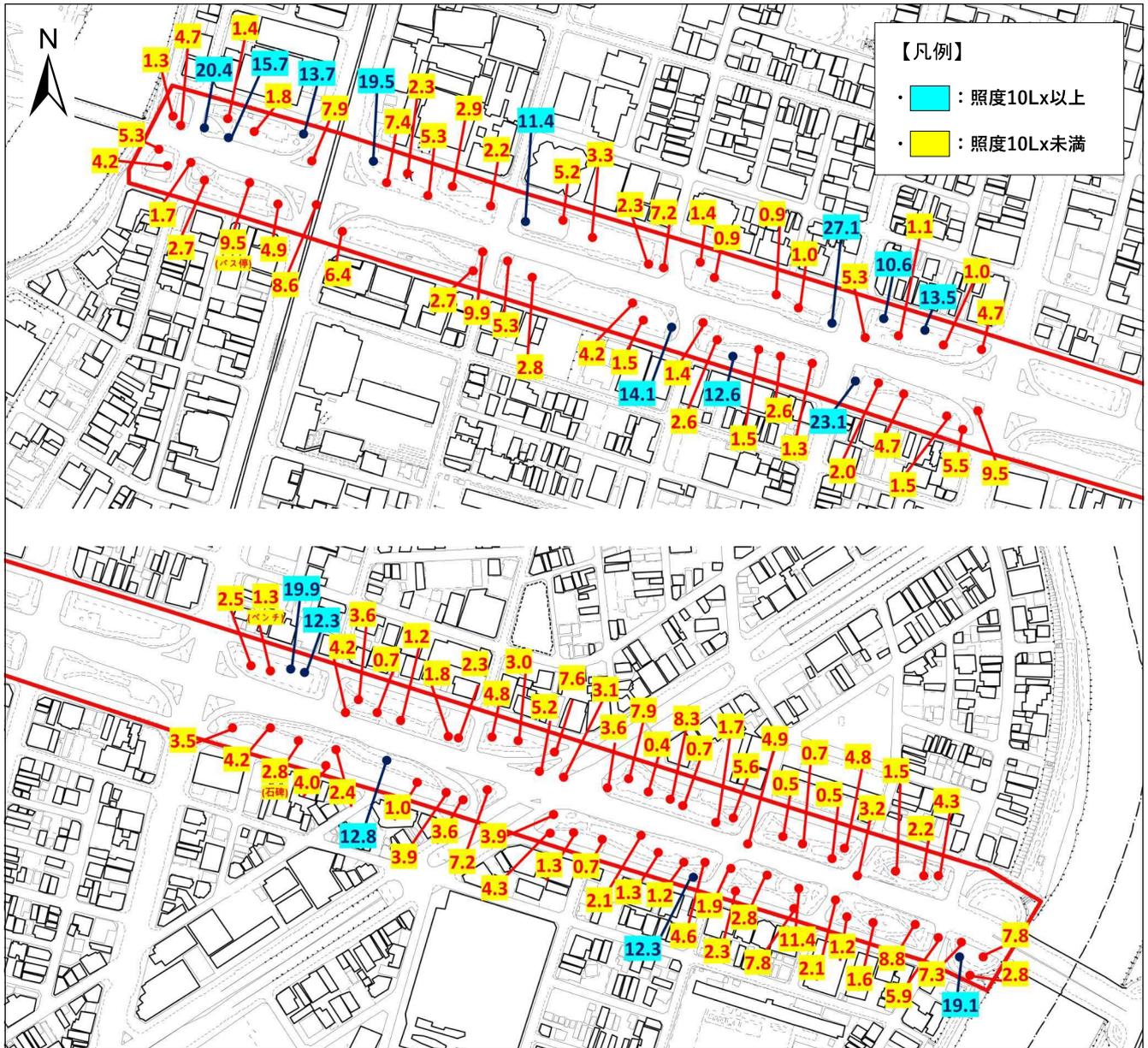


16

ポケットパークに照明は無く、危険を感じるほど暗い。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

緑陰が暗がりをつくっており、全体的に危険を感じるほど暗い状況であるため、改善が必要。

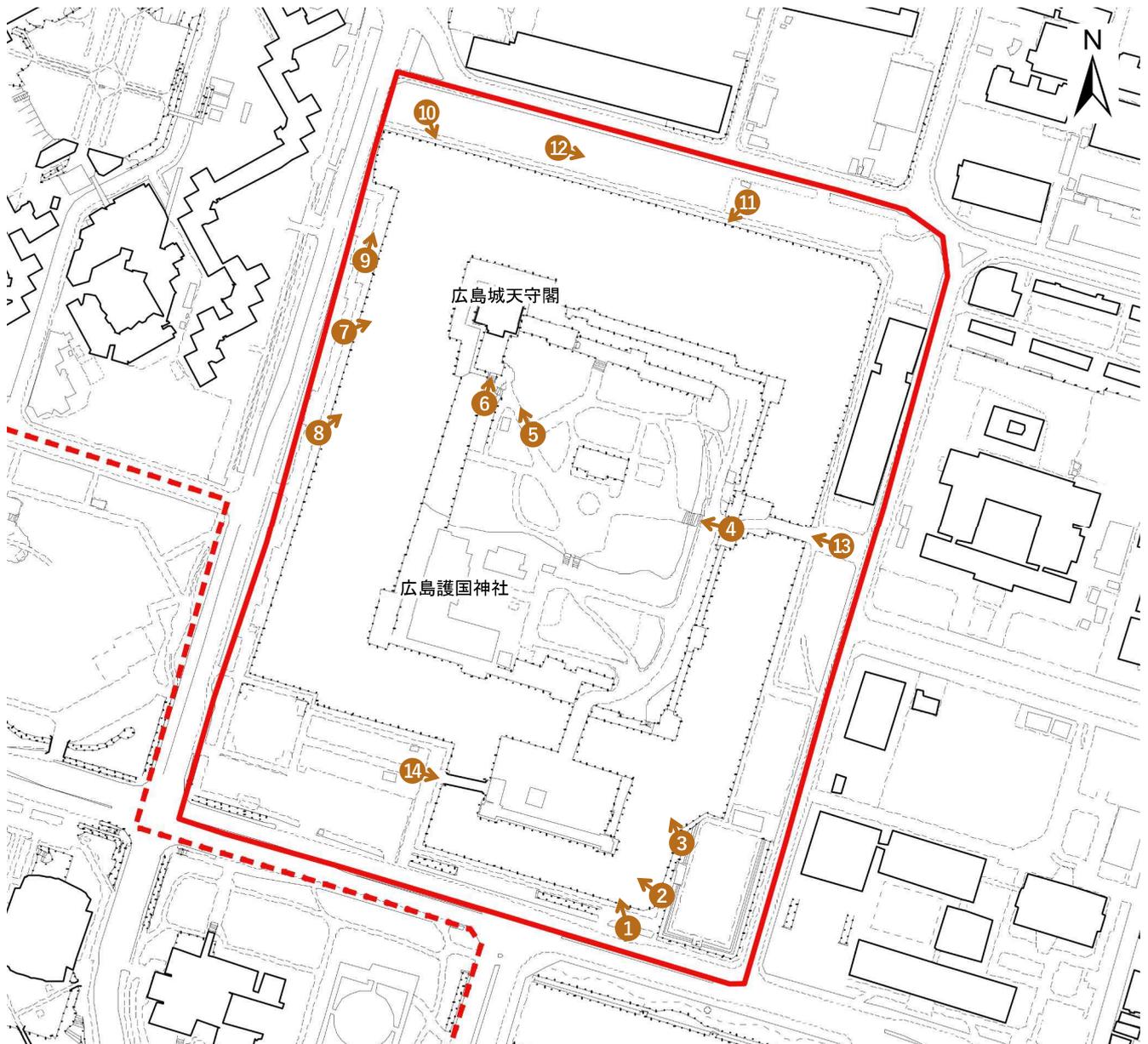
「平和」の景観特性を有する地区として、厳かなあかりの雰囲気を維持しつつも、「平和大通りの利活用のための基本方針」に基づいて現在進めている平和大通り公園整備事業等の取組を踏まえ、鎮魂と憩い、にぎわい、おもてなしが調和する広島ならではのシンボルロードの夜景づくりを検討する必要がある。

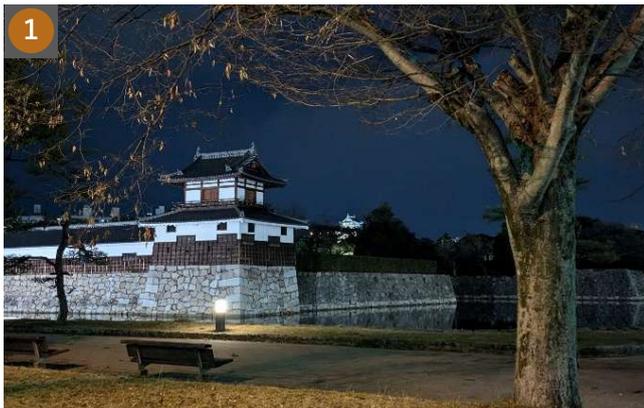
## エリアの特徴

広島城跡は本市の被爆以前からの長い歴史を物語る史跡として重要なエリアである。

広島城天守は、安土桃山時代に建てられた木造の大天守が昭和20年(1945年)に原子爆弾により倒壊した後、昭和33年(1958年)に鉄筋コンクリート造で外観復元され、その後は広島の武家文化を紹介する博物館として親しまれていたが、コンクリートの劣化や設備の老朽化などの問題から、安全面を考慮し、建物内については令和8年(2026年)3月22日をもって閉城することになっている。

三の丸では、令和7年(2025年)に新たなにぎわい施設が一部開業し、また、令和9年(2027年)春には、天守で保存していた収蔵品を展示する新たな博物館施設が開業予定である。





1

城南通りから見た二の丸（復元太鼓櫓付近）の様子。南側のみライトアップされている。



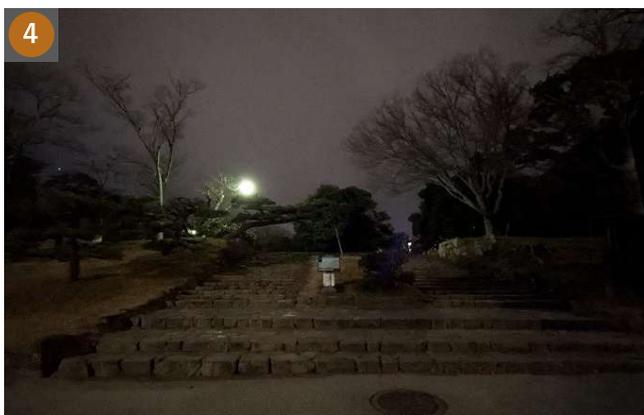
2

東側より太鼓櫓・多間櫓・平櫓を見る。堀に映る水鏡が美しい。



3

南東側の緑地より天守閣方向を見る。石垣が暗く寂しい印象。天守閣が見えるように高木を剪定調整してある。



4

東側の裏御門跡から本丸上段方向を見る。視界のほとんどが暗がり、足元にあかりが必要な状況。グレアも高い。



5

本丸上段エリアから天守閣方向を見る。照明も少なく、高木が暗がりをつくっており、危険を感じる暗さ。



6

天守閣へと続く階段部。期待感も低く、暗くて歩けない。



7

ライトアップの様子。天守閣は大型の白色HIDであるが、石垣は高圧ナトリウム灯で演色性が悪い。



8

西側のベンチから天守閣を見る場合、拡散光の白色の公園灯が視野の中に入り、天守閣への眺望を阻害している。



9 西側奥の遊歩道は天守閣に近いにもかかわらず、暗すぎることから、人がほとんどいない。



10 北西側からの眺望。天守閣と水鏡に写る夜景は立体的で美しいが、遊歩道がすべて暗いため、人がほとんどいない。



11 北東トイレ付近からの眺望。北側石垣もライトアップがあれば、美しい夜景となる。



12 北側遊歩道には照明が全くなく、すべての場所で暗がりとなっており、夜間に散策はできない状態。



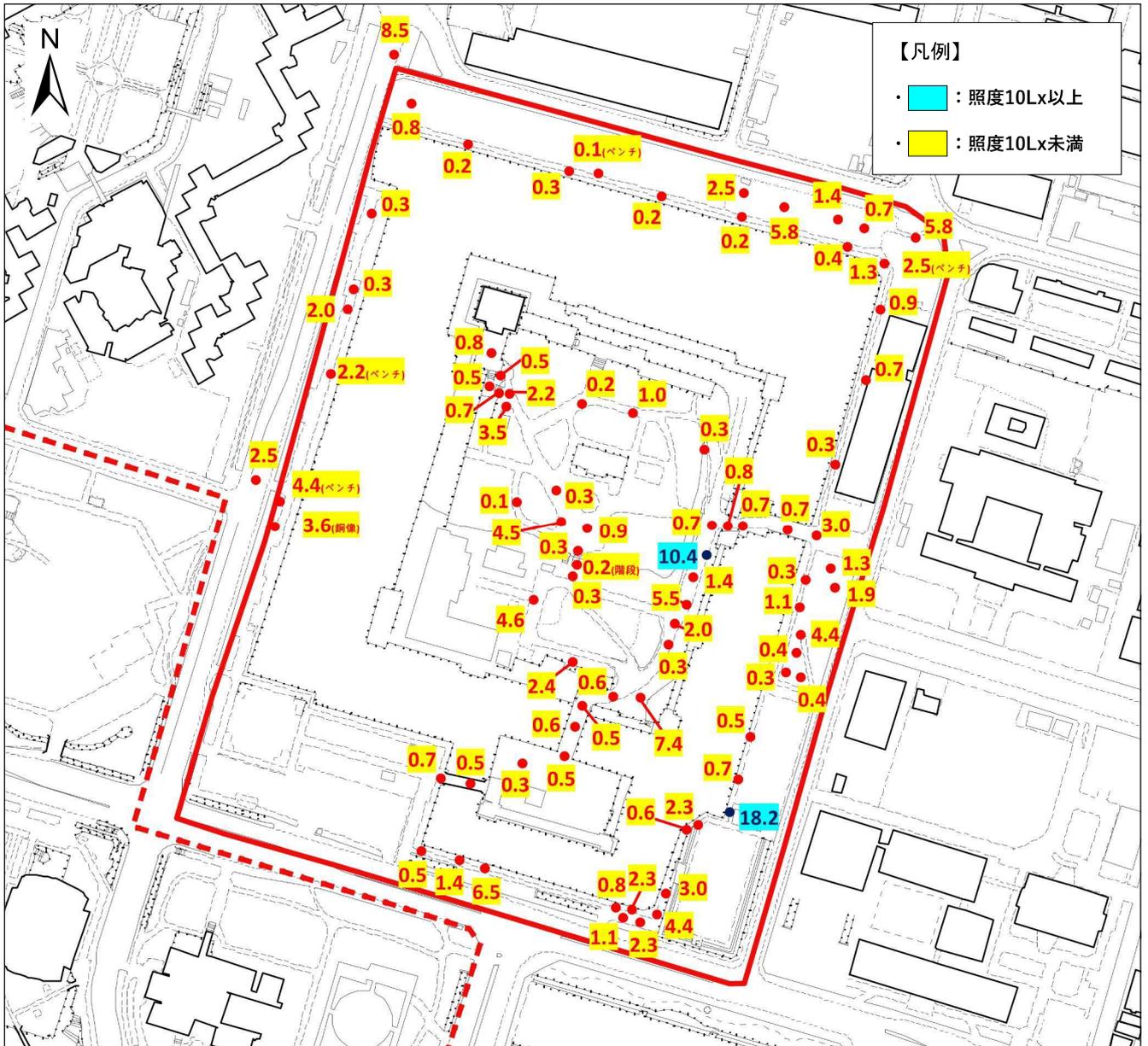
13 東側入口にある護国神社鳥居。照明演出は無い。



14 御門橋から表門を望む。右側だけがライトアップされている状態はバランスが悪い。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

既存ライトアップのLED化と配光調整などの見直しが必要。

石垣の全周ライトアップと表御門などの照明演出を整える必要がある。

本丸内や西側、北側の遊歩道など夜間に場内を歩いてもらうためには安心をつくり出す鉛直面の明るさが必要。

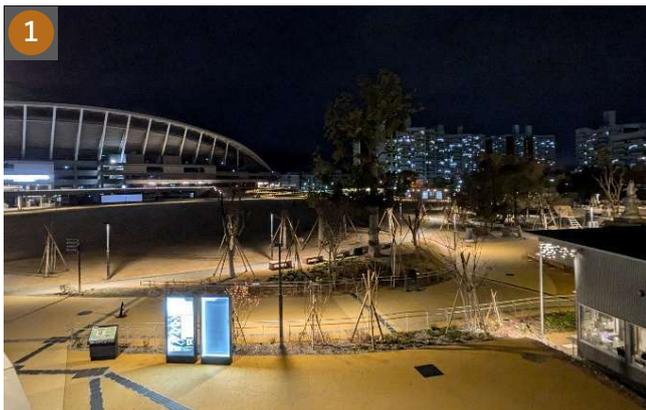
高木もポイントで照らせば安心感も高まる。

## エリアの特徴

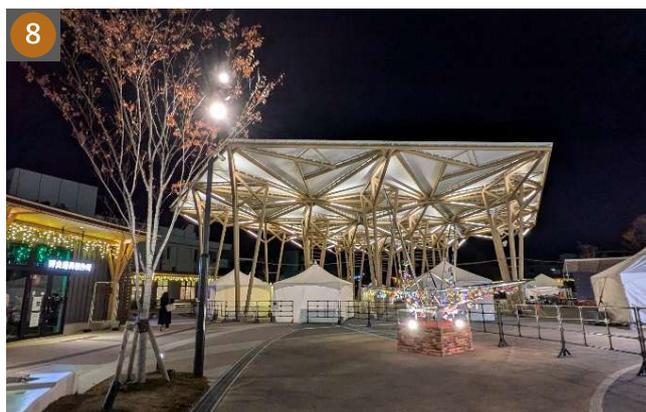
ひろしまスタジアムパークやひろしまゲートパークなどの新たな公共空間が整備され、更なるにぎわいが生まれているエリア。

本エリアには、こども図書館やこども文化科学館、ひろしま美術館、県立総合体育館など、従来からある文化・スポーツ施設が点在している。





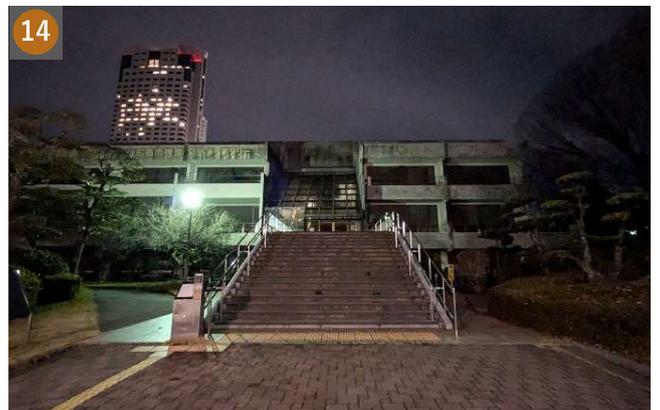
ひろしまスタジアムパークは、電球色による低位置の照明や手すり間接照明、樹木のライトアップなどが用いられている。ポール照明も下方配光のものが選択されており、白色の照明は無い。建築物も夜間景観を意識したものになっており、全体として良好な夜間景観形成ができています。



ひろしまゲートパークは、今日的なパブリックスペースの考え方が取り入れられており、電球色による低位置の照明や間接照明、樹木のライトアップなどが用いられている。建築物も夜間景観を意識したものになっており全体として良好な夜間景観形成ができています。奥に見える既存エリアの白色公園灯との対比が、既存エリアの改修の必要性を示している。



既存エリアの公共照明はただ明るさをとるために設置されており、白色でグレアがある。建築や工作物も夜間の印象を意識しておらず、暗がりを感じる。夜間の通行や利活用を考慮し、良好な夜間景観形成を検討する必要がある。



既存エリアの公共照明は、いずれも白色の拡散型ハイポール照明。建築物の漏れ光も夜間にはすべて消灯されてしまい、夜間景観づくりには貢献していない。

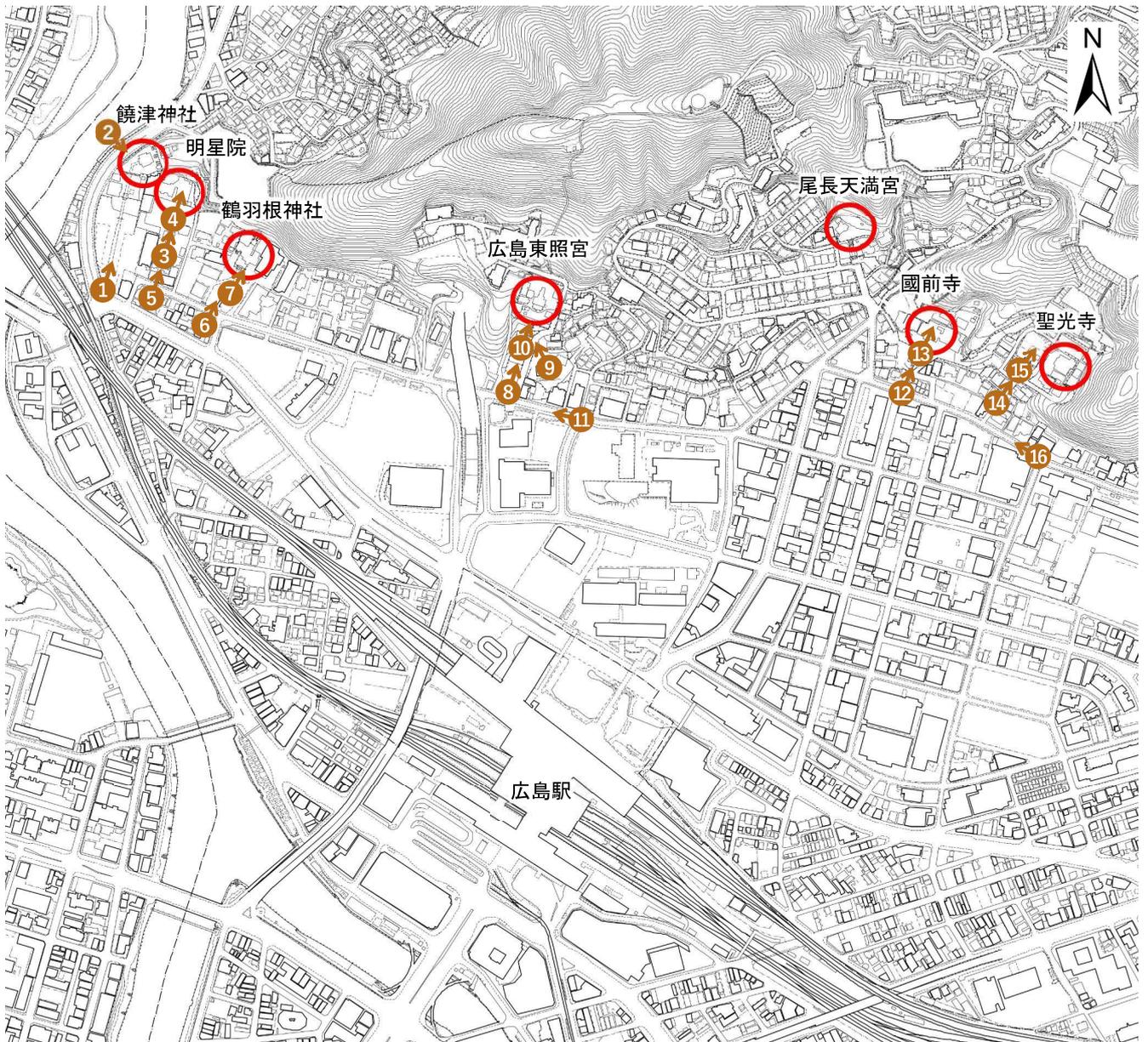


## エリアの特徴

歴史のある神社仏閣が点在し、本市の歴史・文化を感じることができるエリア。

各施設にはそれぞれ魅力的な山門や鳥居、参道などがあり、閉門後もランドマークとして魅力がある。全域を歩いて巡るには距離がある。

二葉の里歴史の散歩道が隣接する二葉の里エリアでは、平成26年(2014年)に土地区画整理事業が完了し、ホテルや商業ビル、医療施設、集合住宅等の再開発が進んでいる。





広島駅から近く、新幹線から参道が見えるものもあるため、照明演出によってその存在を広く発信できると良い。



9

広島東照宮



10

広島東照宮



11

二葉の里歴史の散歩道



12

國前寺



13

國前寺



14

聖光寺



15

聖光寺



16

二葉の里では、夜間に照明演出している寺社もあるが、夜間には閉門している施設も多く、ライトアップなどが無い施設も多い。夜間拝観の有無にかかわらず、寺社仏閣の佇まいは照明演出することでさらに魅力が増す。二葉の里歴史の散歩道については、土地区画整理事業により整備されたエリアと既存エリアの街路照明がバラバラで、通りとして歴史を感じる夜間景観は連続していない。

## 照度分布

本地区は神社仏閣ごとの局所的な調査であるため、照度測定はしていない。

## 調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

## 考察

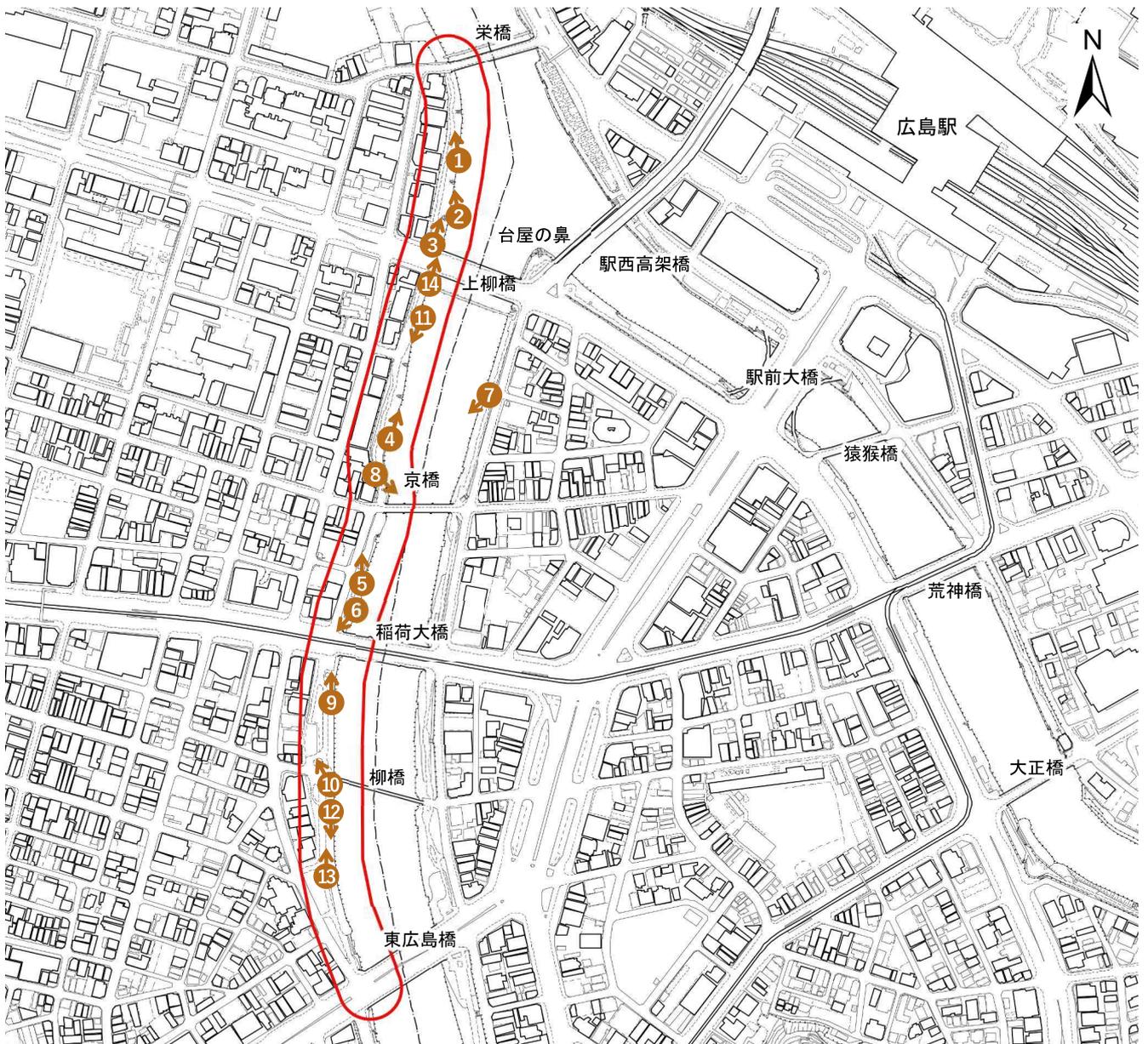
既にライトアップ等を実施している社寺もあるが、未着手の社寺もあった。夜間には山門を閉じる施設もあるため、夜景巡りという視点から見れば、道路に面した山門や楼門の演出だけでも変化が感じられる。

道路から細街路に入らないとわからない寺社については、主たる道路からアクセスできるように、公共照明による誘導、サインの役割を担うことも有効だと考える。

### エリアの特徴

河岸緑地の豊かな緑陰とゆったりした遊歩道は、多くの市民が夜間もジョギングや散歩・通勤通学などで利用している。

「水の都ひろしま」の取組としてオープンカフェが並ぶエリアでは、樹木のライトアップなども実施されている。





1

遊歩道に隣接するホテルの漏れ光が安心感を創出している。



2

遊歩道に隣接する集合住宅の漏れ光が安心感を創出している。



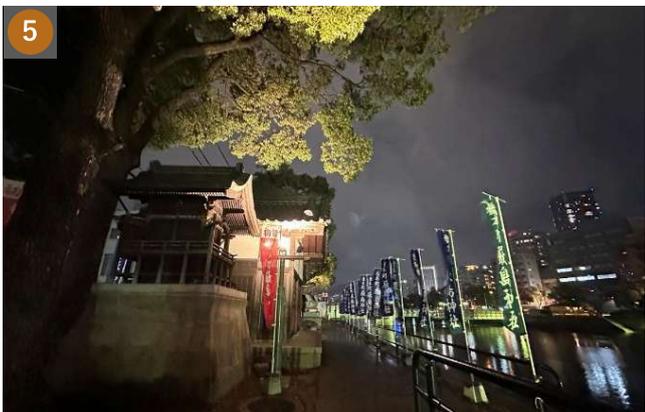
3

暗がりの遊歩道。樹木のライトアップで鉛直面を明るくすることで、安心感を創出することができる。



4

下方配光の照明は良いが、スポット的に明るいだけで全体としては暗い。補完する鉛直面のあかりが必要。



5

神社付近は照明演出があり、心地よい。樹木のあかりも安心感と心地よさを創出している。



6

店舗の漏れ光と樹木ライトアップの組み合わせにより、理想的な遊歩道の陰影がつくられている。



7

京橋川オープンカフェ付近は、橋梁や護岸のライトアップが実施されている。



8

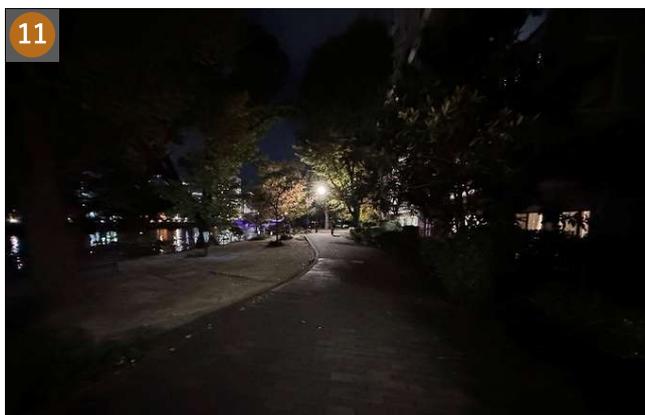
復元された京橋は景観上も重要な橋梁の1つ。親柱・高欄・橋桁・橋脚などがライトアップされている。



9 屋上看板の投光が地面まで届いており、ここだけが極端に明るい。看板の照明はグレアとなっている。



10 建物からの投光があり、室内から遊歩道の緑が楽しめるようになっている。



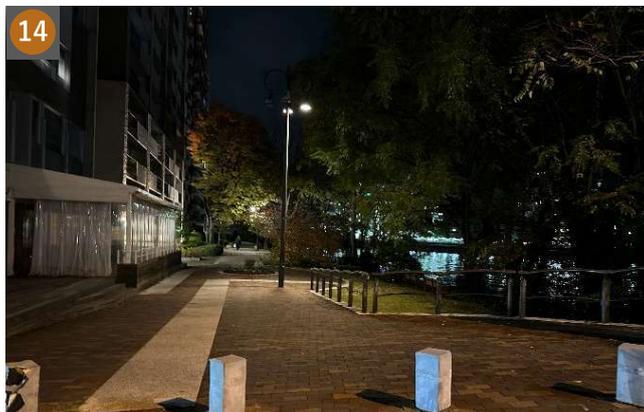
11 樹木により遊歩道は全体的に暗がりになっている。道しるべは遊歩道のわずかな照明しかない。



12 通勤などで利用する人々の中には懐中電灯を持参している人の姿も見られる。スマートフォンで照らしている場合もある。



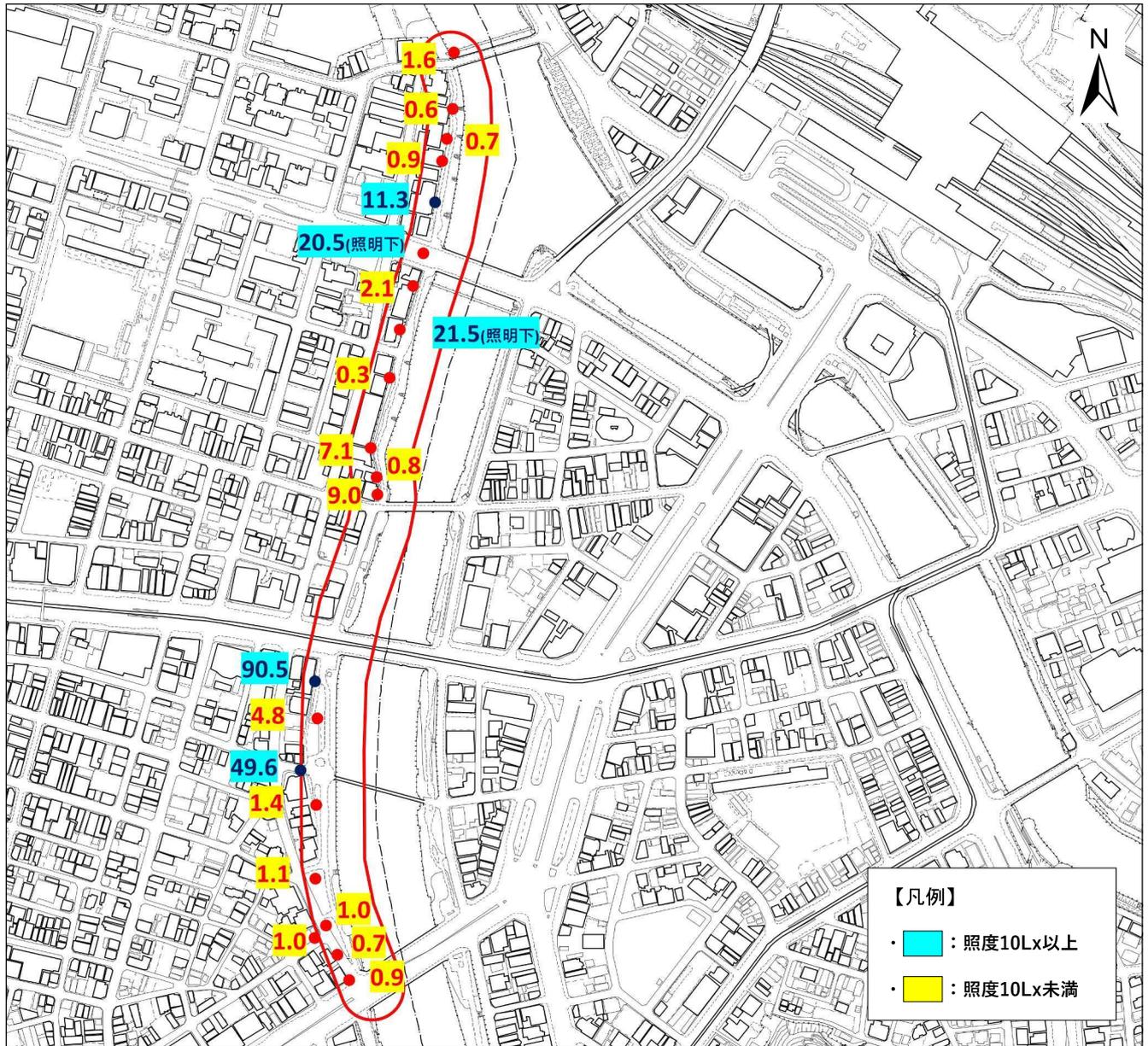
13 建物からのあかりも園路照明も無い場所は、危険を感じるほどの暗がりである。



14 下方配光でグレアの無い照明により、部分的には路面の明るさが確保されている。周辺の樹木のライトアップなどがあれば、より快適な環境となる。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

河岸緑地の遊歩道は、樹木をライトアップすることで鉛直面の明るさを確保し、安心感と華やかさを与える魅力的な水辺景観を創出することができる。

安心して歩行できる空間になるよう、路面を照らす照明設備（スポットライトポール及び低ポール灯等）を配置し、また、樹木のライトアップにより鉛直面の明るさ確保も合わせて行うなど、市民が懐中電灯等を持ち歩かないで済む状況に改善する必要がある。

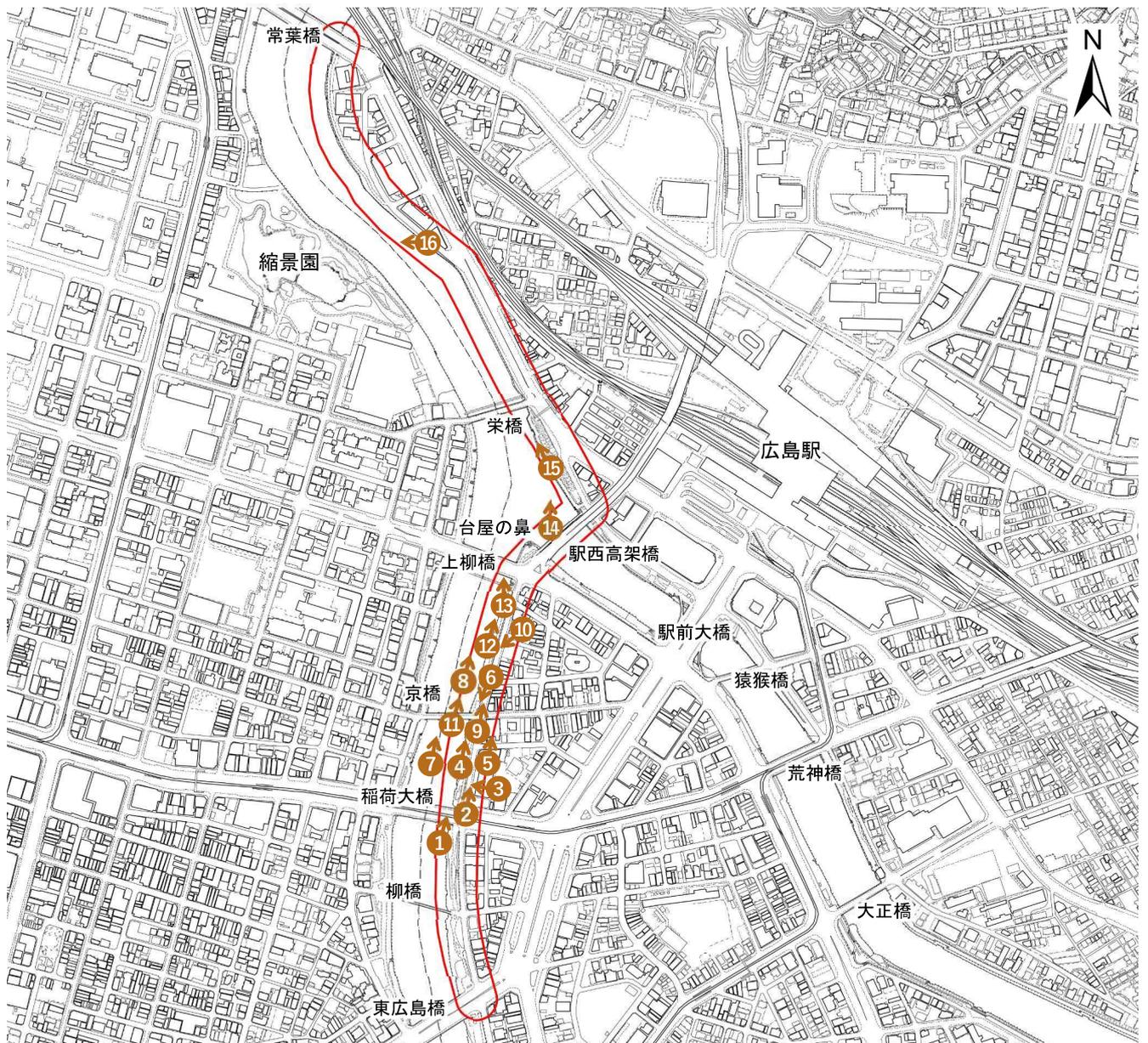
柳橋付近にある柳は夜景で映える樹木であるため、シンボルツリーとなり得る。

### エリアの特徴

広島駅からほど近い水辺エリアで、栄橋～駅西高架橋の間には、大きな市営駐輪場がある。

京橋と稲荷大橋の間は、「水の都ひろしま」の取組として水辺のオープンカフェが立ち並び、樹木のライトアップや低ポール灯の足元照明も整備されている。

京橋は被爆橋梁で雰囲気のある重要なランドマークである。





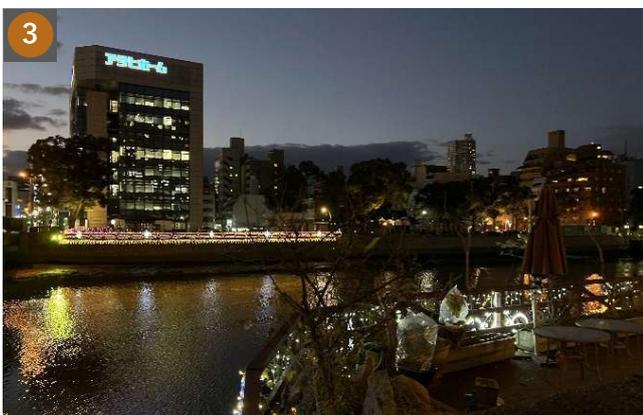
1

店舗周辺には民間によるイルミネーションが華やかさを創出している。



2

店舗横の遊歩道には、下方配光型の足元照明（低ポール灯）が設置され、安心して歩行ができる空間となっている。



3

デッキエリアはイルミネーションが施され、華やかな印象を創り出しているが、デッキ空間そのものは非常に暗い。



4

店舗ファサードの間接照明が特別感を創出している。樹木もライトアップされており陰影に富んだ環境が創出できている。



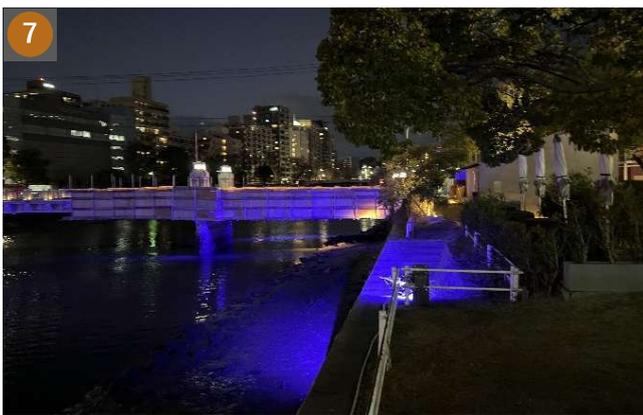
5

足元照明（低ポール灯）があるだけで、歩きやすくなる。樹木ライトアップがあればさらに安心感が高まる。



6

高木のライトアップがオープンカフェエリアのエントランス感を高めており好印象。



7

京橋川オープンカフェ付近は橋梁や護岸のライトアップが実施されている。



8

遊歩道に照明がないため自転車の通行においても危険を感じる。



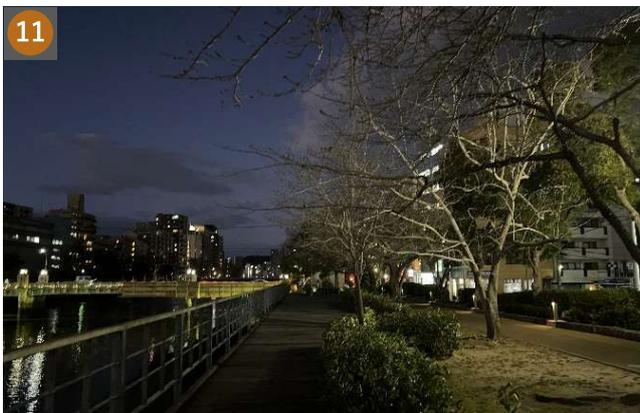
9

オープンカフェ付近には下方配光型の足元照明が設置されているが、視野の多くを占める鉛直面が暗い。グレアも高い。



10

遊具エリアにも照明が無く、夕刻には危険な環境と言える。



11

ライトアップされた京橋を眺めるのに最適なデッキ空間であるが、現状は暗い。桜など照明演出に適した樹木も散見される。



12

北端辺りの遊歩道は通勤などで利用されているが、非常に暗い。



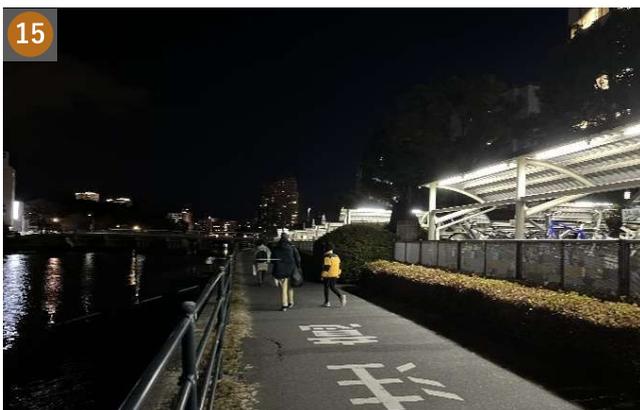
13

暗がりとなっている遊歩道。



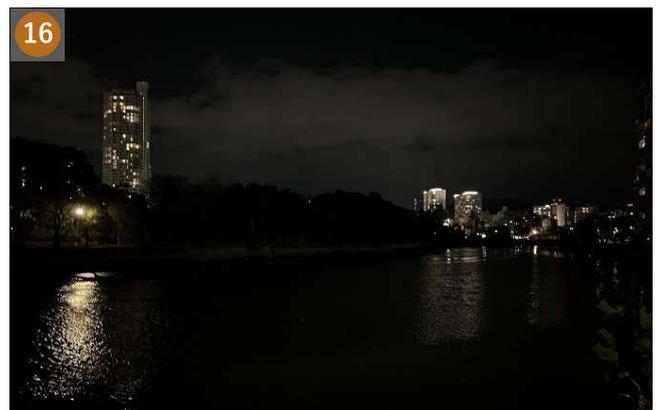
14

南口駐輪場の照明は白色であるため、河川全体が寒々しい印象となっている。



15

南口駐輪場の照明により河川際の歩道は明るく感じられる。

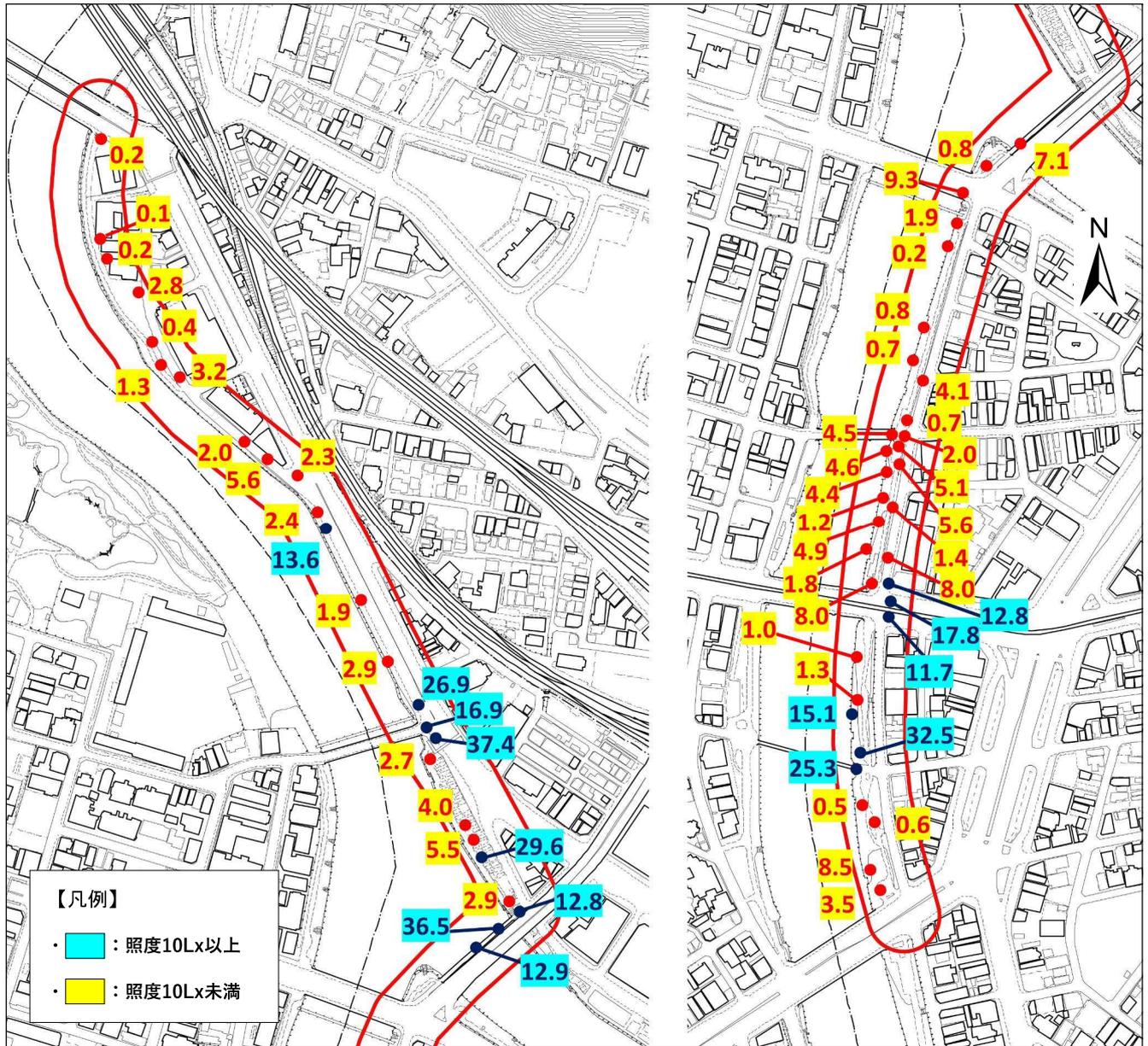


16

対岸の縮景園側は建物からの漏れ光も無く、真っ暗。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

稲荷大橋から京橋を望む視点場から見える川沿いの樹木は、魅力的な河川景観を創出する要素となるため、ライトアップした方がよい。

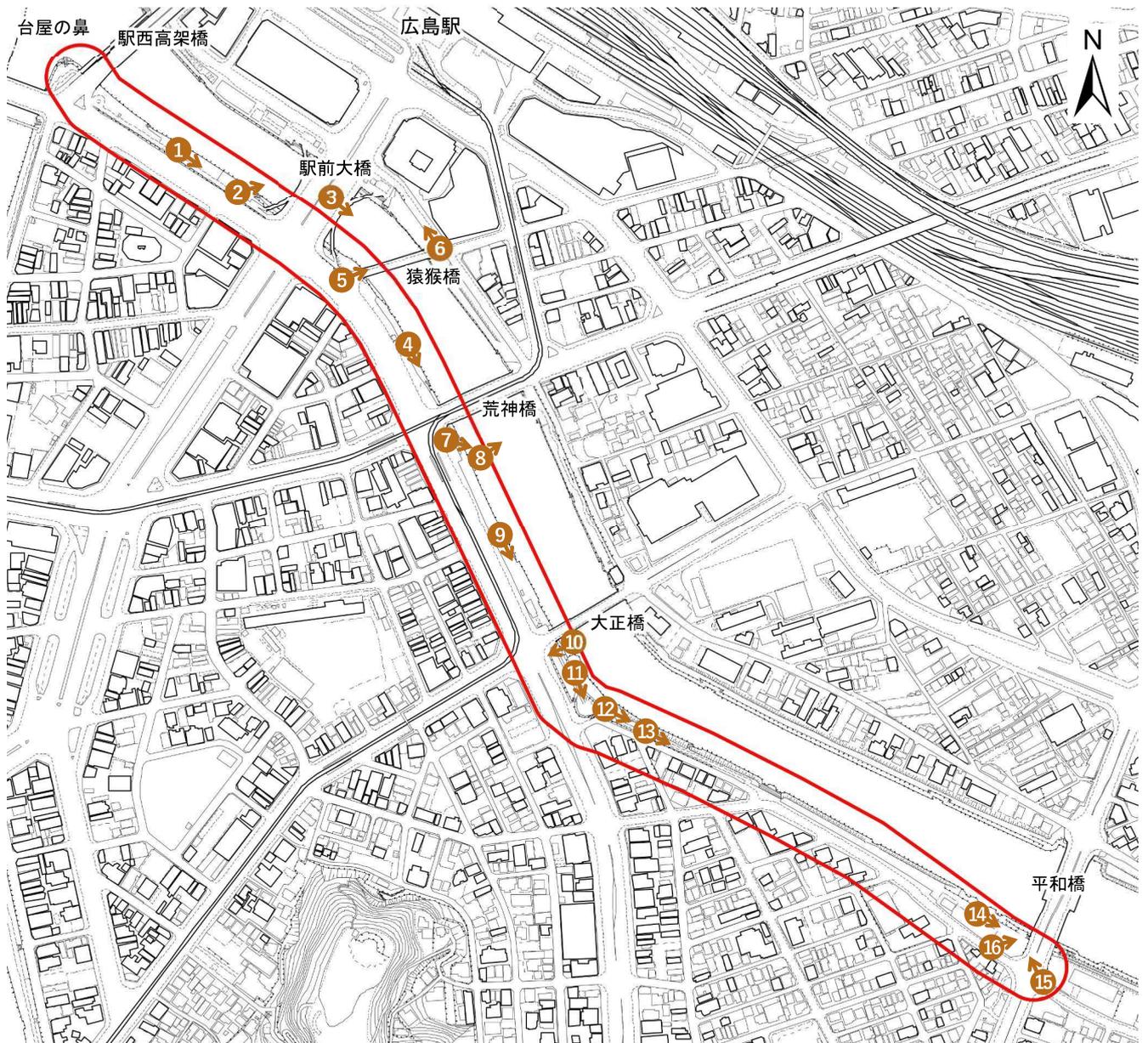
橋梁や雁木のカラー演出は、日常時は温かみのある電球色にした上で、年間のスケジュールで特別な日にもみ演出した方がよい。また、原色の投光は見直すことが望ましい。

稲荷大橋より下流側は、安心して歩行できる空間になるよう、路面を照らす照明設備（スポットライトポール及び低ポール灯等）を配置し、また、樹木のライトアップも合わせて行うなど、市民が懐中電灯を持ち歩かないで済む状況に改善する。

### エリアの特徴

90年代にアートを利用した遊歩道(猿猴川アートプロムナード)が整備され、特徴のある水辺環境が整っている。

オリジナルのアート遊具やファニチャーがあり、日中は楽しめる環境である。





1

遊歩道は明るさが不足している。



2

駅前のビル群が都市的な水辺景観を創出。橋上は十分な明るさがあるが、夜景のランドマークとしては活用できていない。



3

復元された猿猴橋は眺める対象として非常に美しい。周辺の夜間景観を整え、広島夜景の重要スポットとして生かしたい。



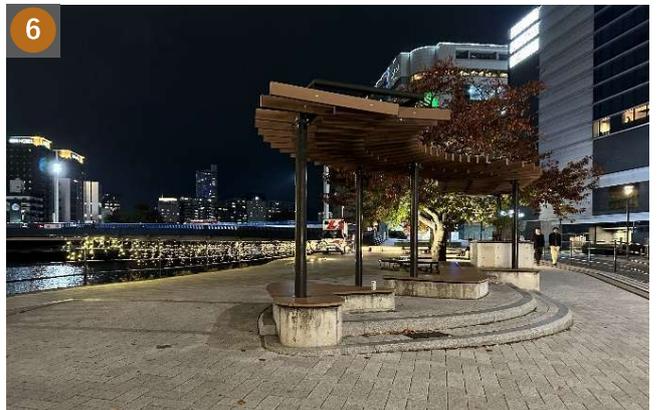
4

猿猴橋側から荒神橋を望む。遊歩道の樹木と荒神橋の創る夜間景観を整えられると回遊性も高まる。



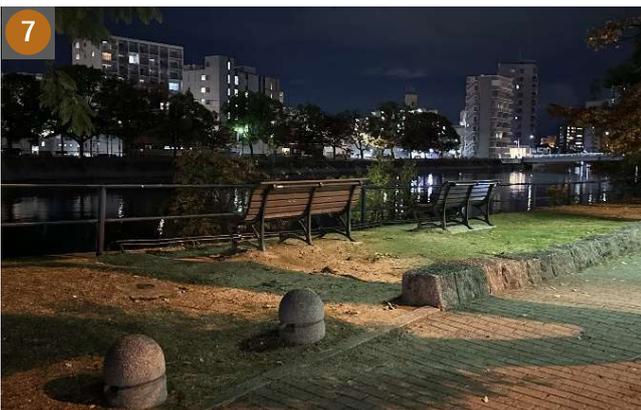
5

復元された猿猴橋。照明も歴史を感じさせ華やかさもあある。拡散型の灯体はグレアも多少あるが、美しいランドマーク。



6

猿猴橋周辺のポケットパーク。間接照明などで空間演出の工夫がされているが、滞留スペースも明るさは不足している。



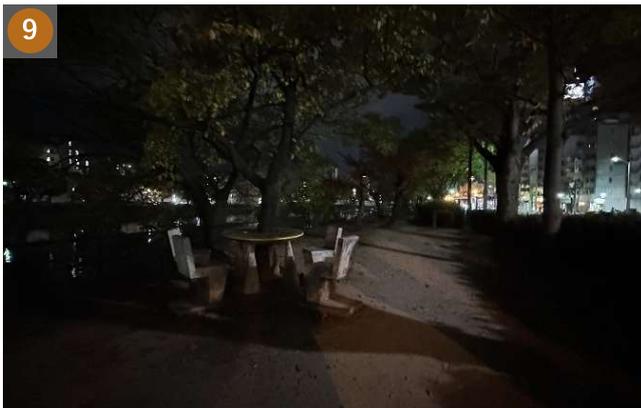
7

ベンチは夜間に座っても眺めたくなる対象が無い。



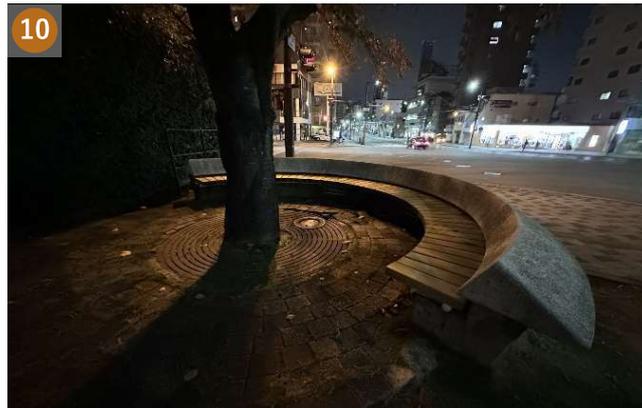
8

左記のベンチから眺められる風景。眺めたくなる工夫が必要。



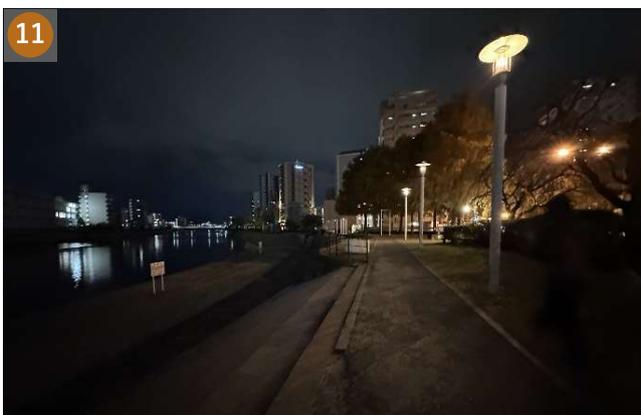
9

アートプロムナードとして29年前に整備されたエリアには、魅力的なファニチャーなどがあり、夜間景観形成に活用できる。



10

間接照明を入れると魅力的な光のスポットになる場所が、エリアの中に点在している。



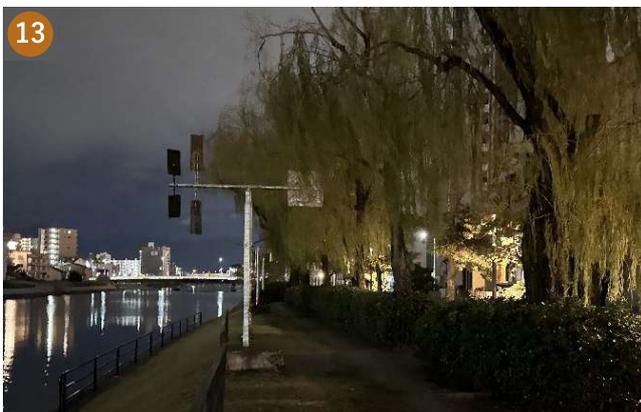
11

桜も楽しめる親水空間。河岸緑地の既存照明は電球色で下方配光となっており良いが、護岸は暗い。



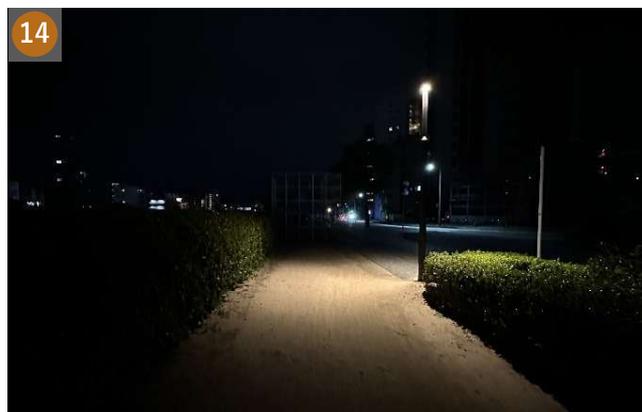
12

個性的なパーゴラも夜間は暗い。LEDに改修し、周囲の暗がりも払拭できれば心地よい場所になる。



13

立派な柳とオブジェ。柳はライトアップするだけで大きな明るさ感をつくることのできるため生かしたい。



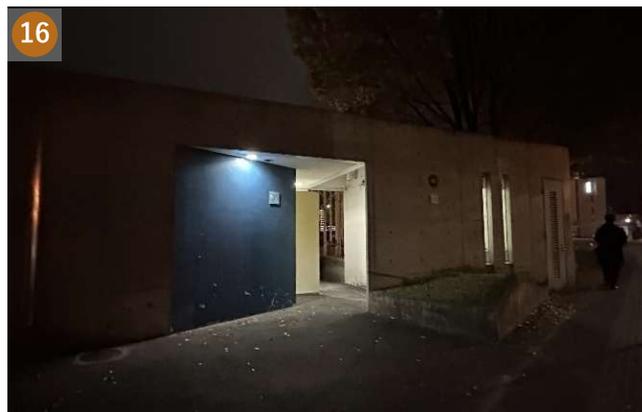
14

最新の下方配光ポール照明が設置されている場所は、快適な明るさが確保されている。



15

アートワークが魅力的なトイレ周辺の様子。これらを生かし、ポール照明の光源を電球色に更新するだけでも、魅力的な場所に再生できる。

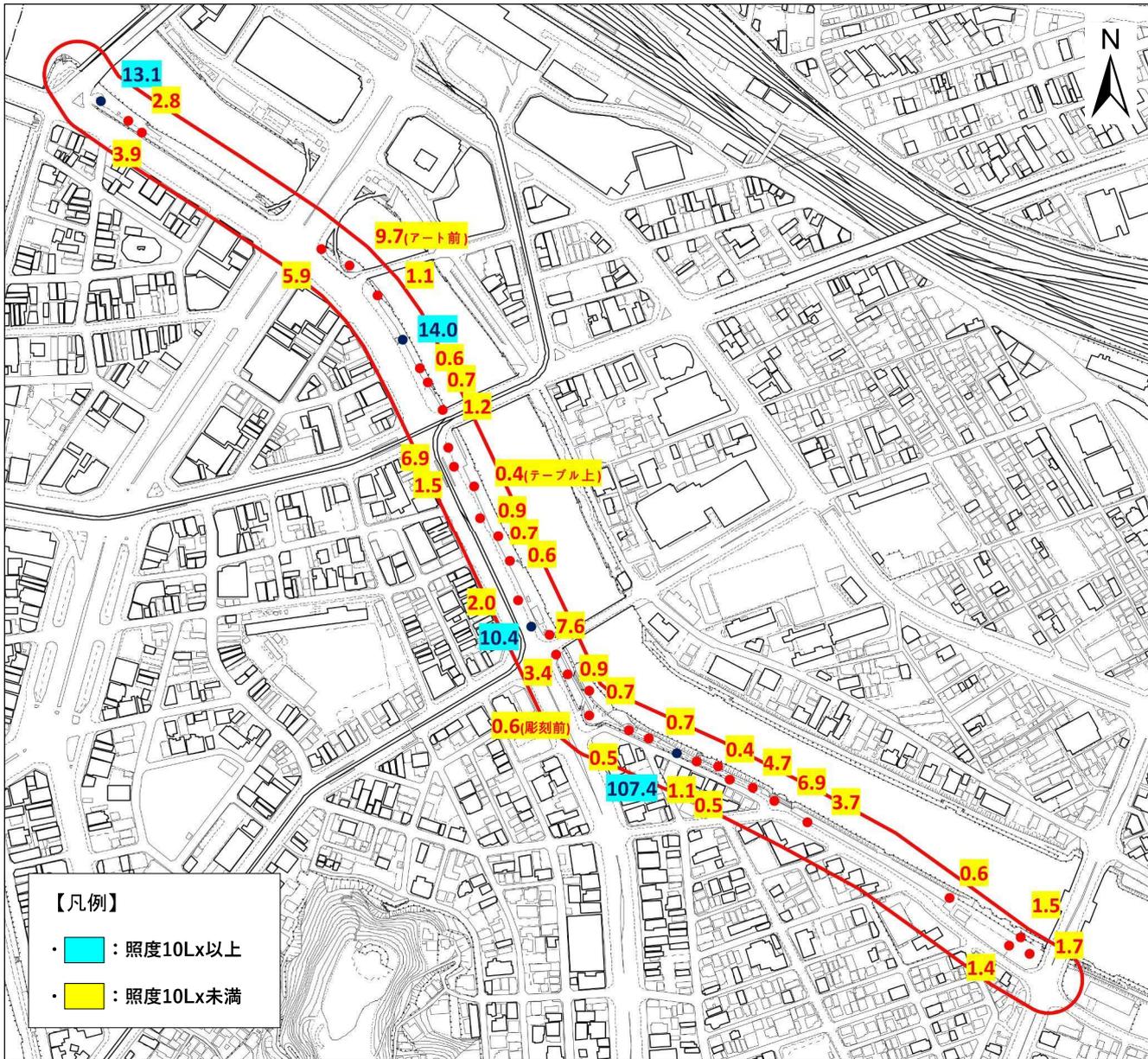


16

トイレは周囲が暗いため、利用することに不安を感じる。手前の路面に明るさが欲しい。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

考察

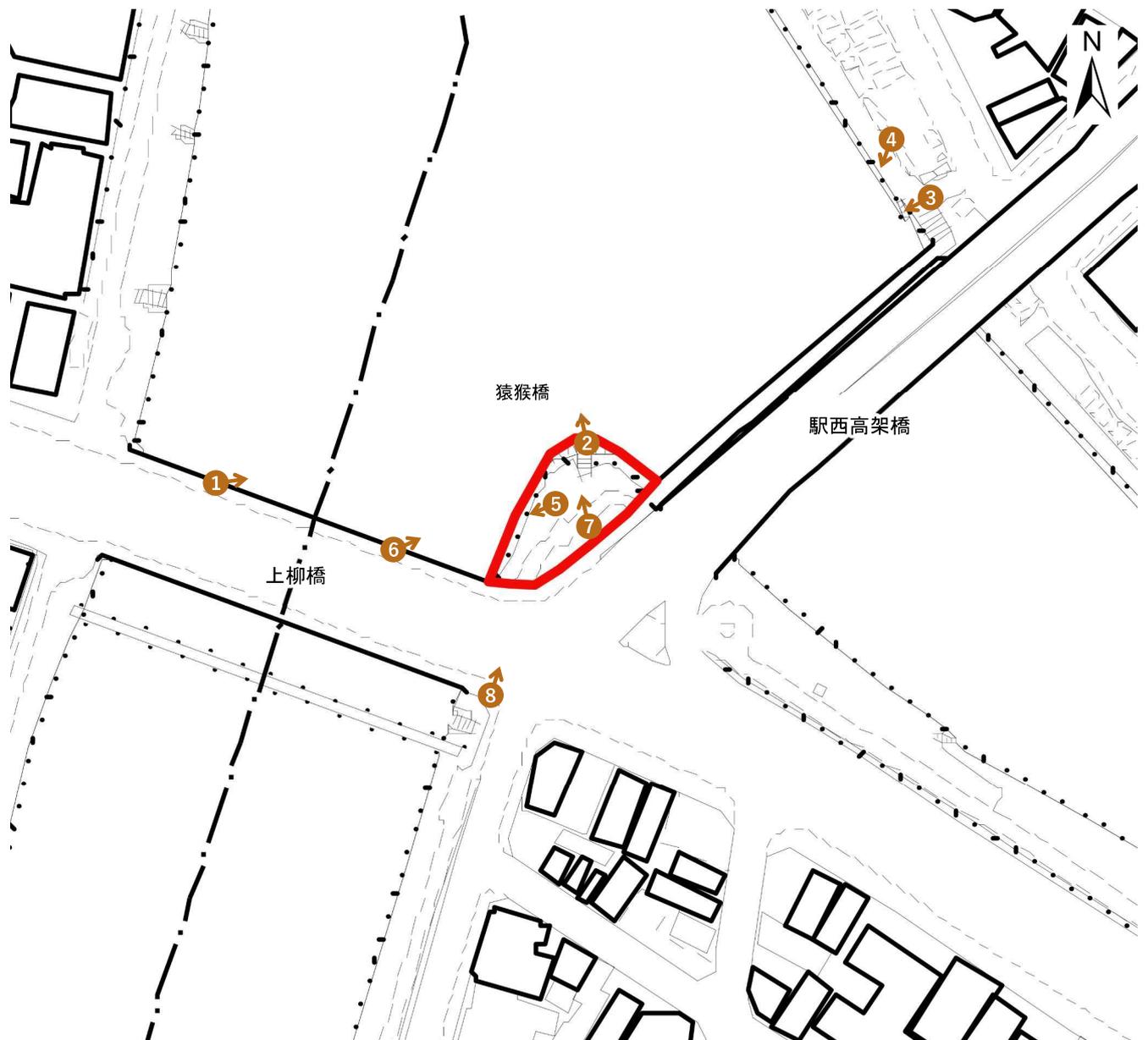
色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

更新されていない照明設備を改善し、樹木のライトアップと合わせて、安全・安心な夜間環境の創出を目指す。

アート遊具やファニチャーを活かし、このエリアの持つ本来のポテンシャルを引き出すのが良い。

### エリアの特徴

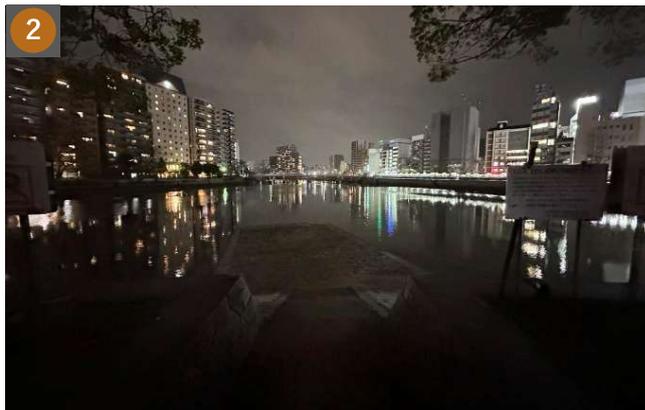
京橋川と猿猴川の分岐点に広がるダイナミックな河川の景観を眺められる視点場。  
「水の都ひろしま」として、デルタ地域が栄えてきた歴史も感じられる。





1

上柳橋から「台屋の鼻」方向を見る。現在は照明は無く暗がりとなっている。



2

「台屋の鼻」から上流方向を見る。河川分岐部のダイナミックな景観が見られる。



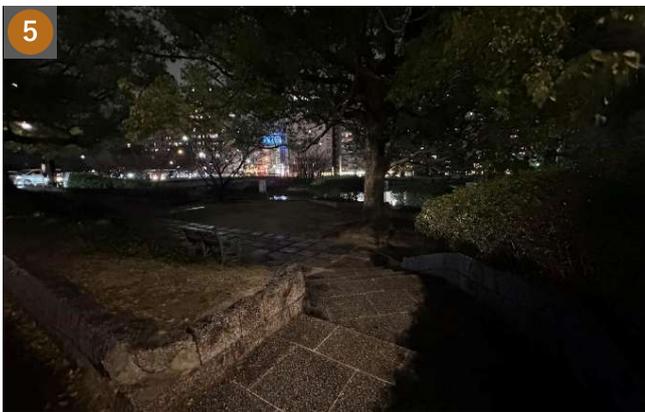
3

駅西高架橋側から「台屋の鼻」を見る。



4

京橋川左岸（広島駅南口駐輪場）付近より「台屋の鼻」方向を見る。



5

現在の「台屋の鼻」の様子。照明が全くなく、危険な暗がりとなっている。桜も植えてある。



6

上柳橋より見る。



7

絶景を眺められる分岐点の「台屋の鼻」は暗がりであるため、歩きたい印象ではない。付むためのあかりと桜などのライトアップがあれば良くなる。

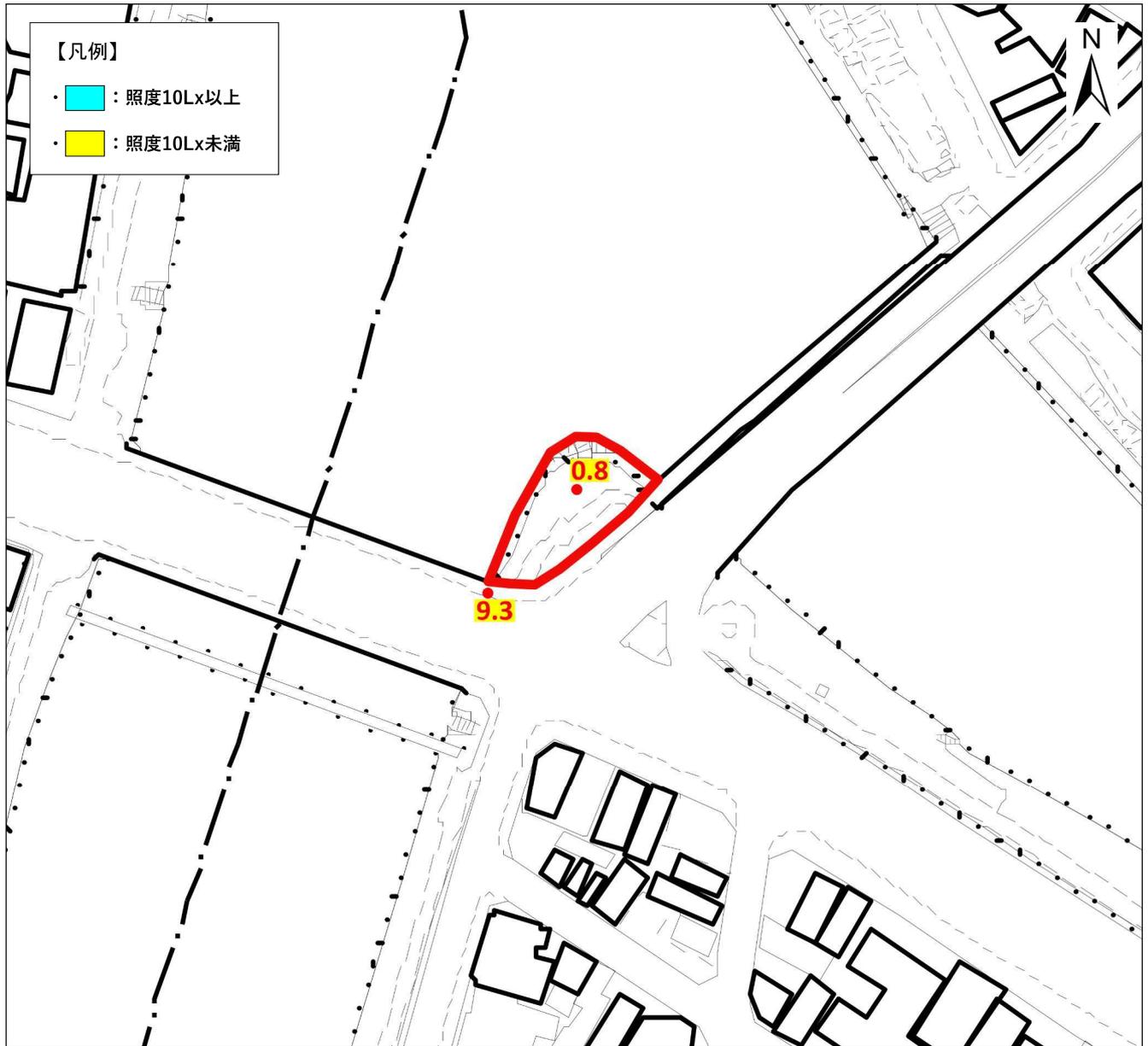


8

交差点から見た「台屋の鼻」は暗がりであるため、歩きたい印象ではない。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	—
グレア	—
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

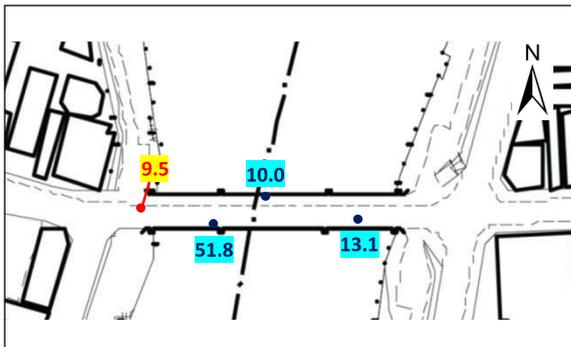
暗がりを払拭し、安全・安心とともに、河川分岐点特有の大パノラマを眺められる快適な滞留空間にできると良い。

樹木のライトアップと低ポール灯などにより、明るさ感の確保をすることが望ましい。



照度分布

単位：Lx（ルクス）



考察

復元された親柱や高欄を生かした橋梁照明と側面からのカラーライトアップが見られ、夜間景観形成が図られている。親柱の照明は白色であるため、電球色への変更が望ましい。

カラー演出は、常に4色が変わるようなプログラムとなっているが、常時は固定色とし、国際的なライトアップデーなどに特別カラーを点灯するなど、カラー演出にコンセプトを持たせることで、年間を通じた都市魅力の発信にも寄与することができる。

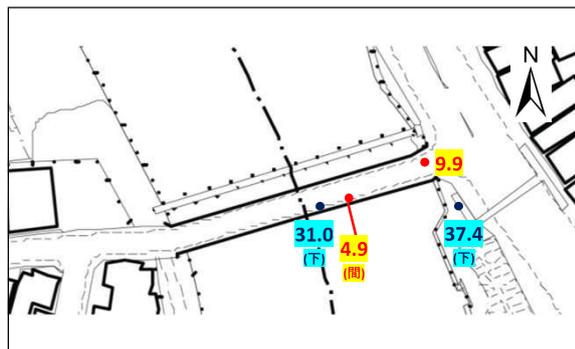
評価

色温度	白色・カラー演出
グレア	ない
鉛直面の明るさ	有り
陰影のバランス	最適



照度分布

単位：Lx（ルクス）



考察

京橋川と猿猴川に分岐する地点に架かっており、下流からの眺望景観の中心を形成する橋梁。

側面などに照明演出を設けることができれば、広島重要な河川景観形成に貢献する。

橋上の明るさについては、歩行可能な範囲内の数値であるため、現状のままで良いが、魅力的な夜間景観形成としては、電球色に変更することが望ましい。

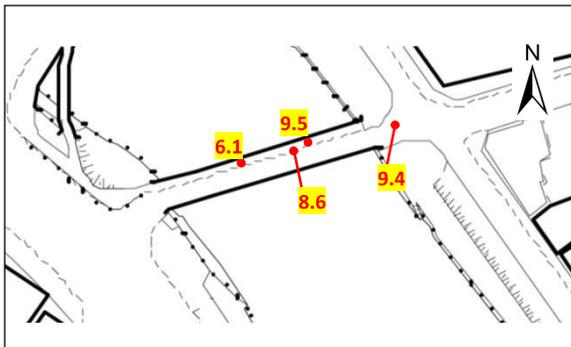
調査エリア全体の評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx（ルクス）



考察

橋梁復元に伴い、照明器具も復元されており、優美な佇まいとなっている。

復元された灯体に使用されているLEDは若干光束が有りすぎるのか、グレアを感じるため、もう少し低いものを使用しても良かったと感じる。

高欄にも照明が設置されており、護岸や他の橋梁から見る水辺夜景にも貢献している。

調査エリア全体の評価

色温度	電球色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	有り
陰影のバランス	最適

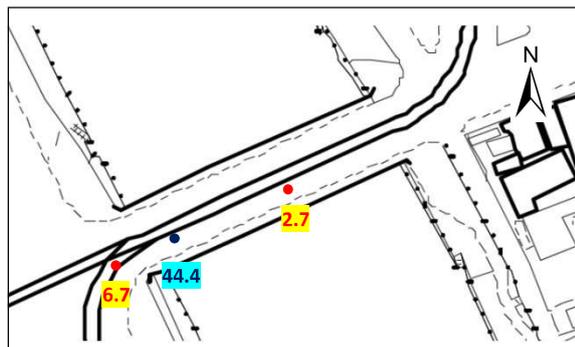
調査 5 - 8

荒神橋 (被爆橋梁)



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

美しい親柱と石材製の高欄が残る貴重な橋梁。

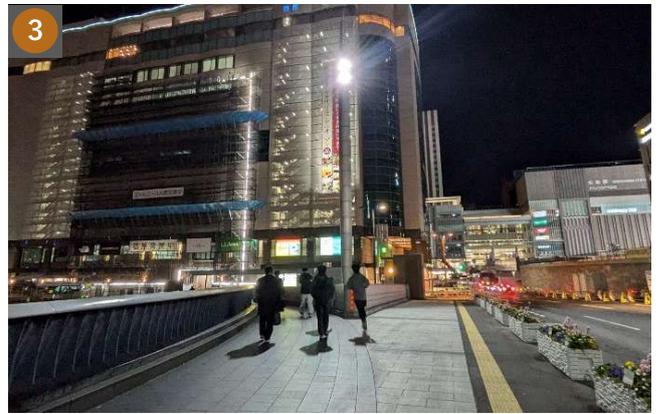
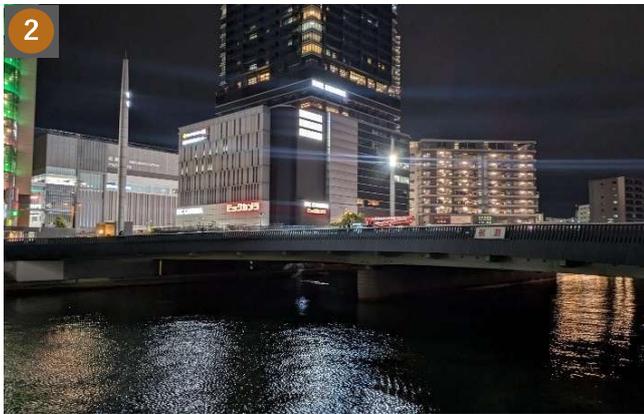
親柱や高欄に間接照明を設置し、夜間も被爆橋梁の歴史を伝えるものになるとより良くなる。

また、ランドマークである猿猴橋からの下流側を望む視点の中心となるため、橋台や橋脚のライトアップを施すことが望ましい。

橋上歩道面の照度は、平均値で明るさは確保できているが、電球色への変更が望ましい。

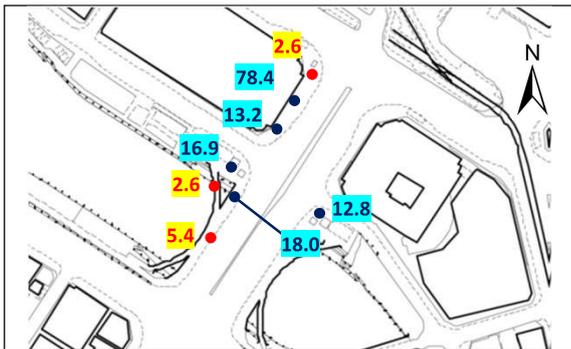
調査エリア全体の評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

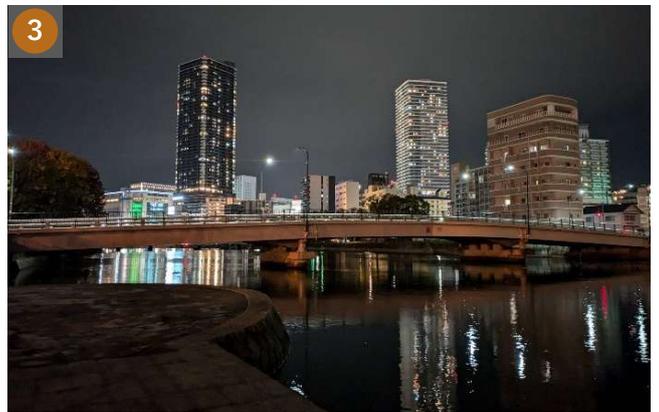
ダイナミックな造形と橋梁照明を内包する4本の柱が特徴的。

橋上の車道は上記柱からの投光で十分明るく歩行には問題が無い。ただ、高欄に間接照明等がないため高揚感に欠け、特に西側橋詰め部では、足元が暗く感じる。

猿猴橋から見る都会的な水辺景観の要となる橋梁であるため橋梁側面や高欄への間接照明を実施し、眺めても美しい橋梁に更新することが望ましい。

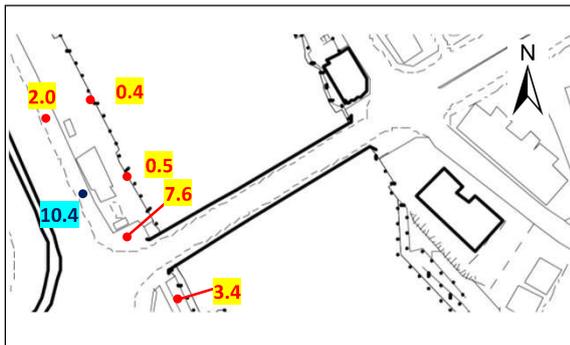
調査エリア全体の評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)

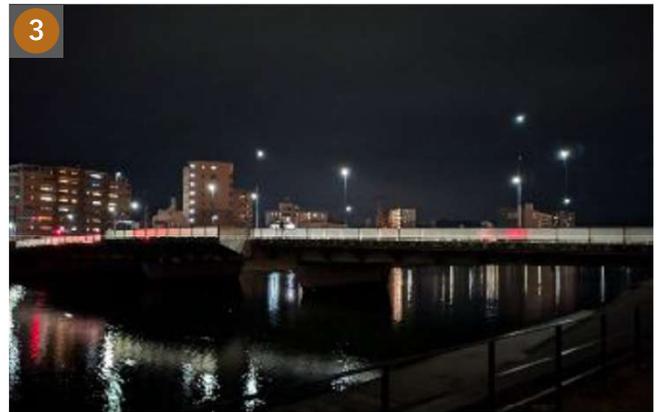
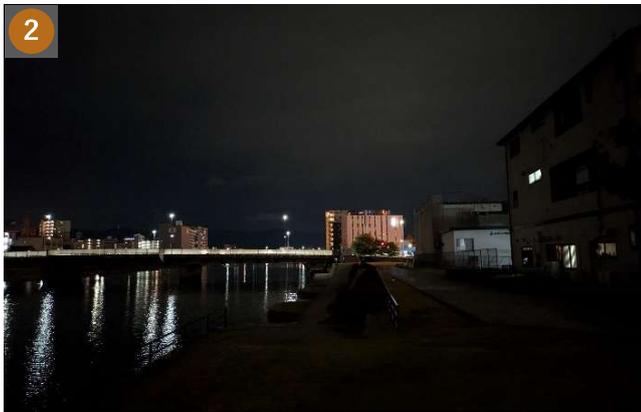


考察

猿猴川アートプロムナードから望むことができる橋梁。  
アートプロムナードの夜間景観形成が図られる時期には橋上道路照明の電球色への変更が望ましい。

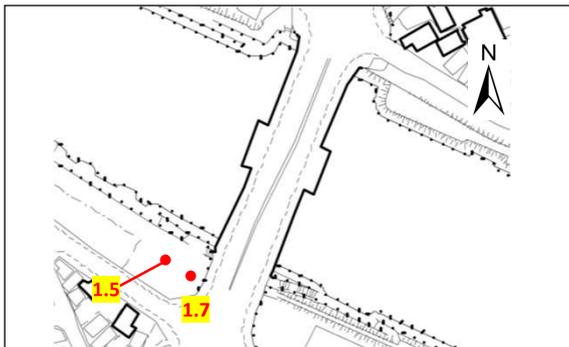
調査エリア全体の評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

猿猴川アートプロムナードから望むことができる橋梁。  
現状は白色の橋上道路・歩道照明のみ。  
上記の強い明るさにより、パネル状の橋上転落防止柵が内照されて光壁のような演出作用が働き、夜間のランドマークとして貢献している。

調査エリア全体の評価

色温度	白色
グレア	無し
鉛直面の明るさ	有り
陰影のバランス	最適